

I (一社) 美しい伊豆創造センター 令和5年度事業報告

1 会議等の開催

(1) 総会

日 付	内 容 等
令和5年 4月25日(火)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会(書面) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の選任について
6月27日(火)	第7回(一社) 美しい伊豆創造センター定時社員総会(修善寺総合会館) 議案第1号 令和4年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の選任について 報告第1号 令和5年度(一社) 美しい伊豆創造センター(事業計画及び収支予算について
8月31日(木)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の選任について
12月20日(水)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会(あやめ会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター定款の改正について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の選任について

(2) 理事会

日 付	内 容 等
令和5年 4月7日(金)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時理事会(書面) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会の開催について
6月8日(木)	(一社) 美しい伊豆創造センター理事会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター副会長の選定について 議案第3号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第4号 令和4年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について 議案第5号 (一社) 美しい伊豆創造センター定時社員総会の開催について 報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第92条に係る取引の報告について 報告第2号 ユネスコ世界ジオパーク再認定にかかる指摘事項の報告について 報告第3号 持続可能な開発のための教育(ESD)活動にかかる基本方針について 報告第4号 東アジア文化都市事業 伊豆のふるさとと文学2023

	の実施について 報告第 5 号 デジタル田園都市関連事業について
8 月 7 日 (月)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時理事会 (修善寺総合会館) 議案第 1 号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第 2 号 (一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会の開催について
8 月 31 日 (木)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時理事会 (修善寺総合会館) 議案第 1 号 (一社) 美しい伊豆創造センター副会長の選定について
11 月 17 日 (金)	(一社) 美しい伊豆創造センター臨時理事会 (書面) 議案第 1 号 (一社) 美しい伊豆創造センター定款の改正について 議案第 2 号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第 3 号 (一社) 美しい伊豆創造センター臨時社員総会の開催について
12 月 20 日 (水)	(一社) 美しい伊豆創造センター理事会 (あやめ会館) 議案第 1 号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 84 条に係る取引の承認について 議案第 2 号 (一社) 美しい伊豆創造センター職員給与規程の改正について 議案第 3 号 (一社) 美しい伊豆創造センター職員就業規則の改正について 報告第 1 号 (一社) 美しい伊豆創造センター企画運営委員会副委員長を選出について 報告第 2 号 令和 5 年度 (一社) 美しい伊豆創造センター事業経過報告について 報告第 3 号 令和 5 年度 (一社) 美しい伊豆創造センター収支予算の変更について 協議第 1 号 令和 6 年度 (一社) 美しい伊豆創造センター事業計画(案)、市町負担金(案)、収支予算(案)について
令和 6 年 3 月 28 日 (木)	(一社) 美しい伊豆創造センター理事会 (修善寺総合会館) 議案第 1 号 (一社) 美しい伊豆創造センター入会申込者の許否について 議案第 2 号 (一社) 美しい伊豆創造センター顧問の選任について 議案第 3 号 令和 6 年度 (一社) 美しい伊豆創造センター事業計画(案)、収支予算(案)について 議案第 4 号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第 84 条に係る取引の承認について 議案第 5 号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事候補者推薦委員会の設置について 報告第 1 号 観光に関する住民満足度調査について 報告第 2 号 伊豆半島エコツーリズム推進全体構想(案)について 報告第 3 号 (一社) 美しい伊豆創造センター事務局長の選任について

(3) 委員会

日 付	内 容 等
令和5年 5月31日(水)	(一社)美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター入会申込者の許可について 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター副会長の選定について 議案第3号 令和4年度(一社)美しい伊豆創造センター事業報告及び計算書類の承認について 議案第4号 (一社)美しい伊豆創造センター定時社員総会の開催について 報告第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第92条に係る取引の報告について 報告第2号 ユネスコ世界ジオパーク再認定にかかる指摘事項の報告について 報告第3号 持続可能な開発のための教育(ESD)活動にかかる基本方針について 報告第4号 東アジア文化都市事業 伊豆のふるさとと文学 2023の実施について 報告第5号 デジタル田園都市関連事業について
7月5日(水)	(一社)美しい伊豆創造センター第1回ジオパーク委員会(修善寺総合会館) 協議事項 ①東伊豆町熱川温泉のサイト登録について 報告事項 ①令和5年度 事業計画及び予算について ②ユネスコ世界ジオパーク再認定にかかる指摘事項について ③エコツーリズム全体構想について
7月21日(金)	企画運営委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター臨時社員総会の開催について
11月13日(月)	企画運営委員会(WEB) 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター定款の改正について 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター理事の推薦について 議案第3号 (一社)美しい伊豆創造センター臨時社員総会の開催について 報告第1号 (一社)美しい伊豆創造センター企画運営委員会副委員長の選出について
11月27日(月)	第1回(一社)美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社)美しい伊豆創造センター予算の変更について 議案第2号 (一社)美しい伊豆創造センター令和6年度事業計画(案)及び収支予算(案)について

	報告第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター事業経過報告について
12月12日(火)	(一社) 美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の承認について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター職員給与規程の改正について 議案第3号 (一社) 美しい伊豆創造センター職員就業規則の改正について 報告第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター令和5年度事業経過報告について 報告第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター令和5年度収支予算の変更について 協議第1号 令和6年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業計画(案)、市町負担金(案)、収支予算(案)について
12月12日(水)	(一社) 美しい伊豆創造センター第2回ジオパーク委員会(修善寺総合会館) 報告事項 ①GGN世界大会(モロッコ)について ②新研究員の着任について ③エコツーリズム推進全体構想(案)について 協議事項 ①令和6年度事業計画及び予算について
3月11日(月)	第2回(一社) 美しい伊豆創造センター観光・地域振興委員会(伊東市役所8階大会議室) 報告第1号 令和5年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業経過報告について 協議第1号 令和6年度(一社) 美しい伊豆創造センター事業計画(案)について 協議第2号 令和6年度(一社) 美しい伊豆創造センター収支予算(案)について
3月19日(火)	(一社) 美しい伊豆創造センター第3回ジオパーク委員会(修善寺総合会館) 報告事項 ①令和5年度事業実施報告について ②伊豆半島ユネスコ世界ジオパーク認定5周年記念イベントについて ③エコツーリズム推進全体構想(案)について 協議事項 ①令和6年度事業計画及び予算について ②2025年(令和6年度)ロゲイニング大会開催地について ③ジオパーク委員会委員構成及び設置要綱の改正について ④次期中期計画及び新ワーキンググループについて
3月19日(火)	(一社) 美しい伊豆創造センター企画運営委員会(修善寺総合会館) 議案第1号 (一社) 美しい伊豆創造センター入会申込者の許否に

	について 議案第2号 (一社) 美しい伊豆創造センター顧問の選任について 議案第3号 (一社) 美しい伊豆創造センター令和6年度事業計画(案)、収支予算(案)について 議案第4号 一般社団法人及び一般財団法人に関する法律第84条に係る取引の承認について 議案第5号 (一社) 美しい伊豆創造センター理事・監事候補者推薦委員会の設置について 報告第1号 観光に関する住民満足度調査について 報告第2号 伊豆半島エコツーリズム推進全体構想(案)について
--	---

(4) その他

日 付	内 容 等
令和5年 5月26日(金)	第1回大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議(第1回地域連携型ワークショップ)(修善寺総合会館) 報告事項 ① 令和4年度静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議決算並びに収入支出決算の審議について ② 令和5年度静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議予算について ③ 今後の事業・スケジュールについて
9月21日(木)	第1回広域観光事業委員会賀茂地域商工連携部会(静岡県賀茂危機管理庁舎) 報告事項 ① 令和5年度主要事業等について ② 道の駅等における観光物産展について ③ 意見交換
9月22日(金)	第2回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議(修善寺総合会館) 報告事項 ① 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議令和5年度事業実績及び今後の予定について ② (一社) 美しい伊豆創造センター令和5年度観光事業の中間報告について
11月1日(水)	第3回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議(第2回地域連携型ワークショップ)(修善寺総合会館) 報告事項 ① 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議令和5年度事業実績及び今後の予定について ② (一社) 美しい伊豆創造センター令和5年度観光事業の中間報告について
令和6年 2月15日(木)	第4回大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議並びに観光・地域振興委員会実務担当者会議(修善寺総合会館) 報告事項 ① 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会伊豆地域会議・令和5年度収支状況(決算)並びに収入支出決算の審査について ・ 令和5年度事業実績について

	②（一社）美しい伊豆創造センター令和5年度観光事業実績及び今後の予定について
2月15日（木）	インバウンド事業に係る行政担当者会議（修善寺総合会館） 報告事項 インバウンド事業の取組みについて

2 伊豆半島観光戦略推進（DMO）事業に関する事項

(1) 事業概要及び目的等

ジオパークの恩恵を最大限に活用し来訪者と生活者の満足度向上に貢献するための取組を展開した。令和4年度中に策定した組織の根幹となる基本理念とビジョン、中期活動方針に基づき、ツーリズムの推進や地域課題に取り組んだ。

(2) 事業実施状況

ア 「ジオリゾート伊豆」ブランディング推進事業

経営理念およびブランドスローガンの周知および地域課題のひとつである観光防災に関する取組を推進した。

項 目	概 要
①経営理念およびブランドスローガンの周知	・法人概要や経営理念、会員募集要項を記載したリーフレットを作成。新規会員獲得へ繋げるため、昨年度作成した3ヶ年活動計画とあわせ地域の事業者等に周知。随時実施。
②観光防災に関する取組の推進	・観光防災の専門家である観光レジリエンス研究所代表の高松正人氏を講師として招き、防災の意識醸成を図るため11月27日に講演会を開催。 ・題目：「南海トラフ地震・自然災害 旅行者に私の街は安心ですと言えますか」 ・参加者：60名。観光事業者、行政観光担当、防災担当者、一般市民。

イ サステナブルツーリズム事業

伊豆半島ジオパークの持続的発展に向けたジオツーリズムのモデル造成事業と題し、おもてなしのコミュニケーションにより伊豆半島ジオパークの特性を伝え、ファンとリピーターを拡大できる認定ジオガイドの育成のための研修を実施した。また、前年度公共交通機関と連携し造成したツアーを静岡県観光商品シートへ掲載した。

項目	概要
①サステナブルツーリズム事業	（11/4～5：富士宮市 6名、18～19：伊豆市 6名） 伊豆半島ジオパーク認定ジオガイドの更なる技術向上のため、サステナブルツーリズム事業の有識者よりインタープリテーション※技術の習得等を目的に実施。 講師：（一社）エコロジック 代表理事 新谷 雅徳氏 （国際インタープリテーション・トレーナー） ※「インタープリテーション」とは、単なる情報の提供でなく、直接体験や教材などの「見えるもの」を通し、その裏側にある「見えないもの」の本質やメッセージを伝えること（出典：日本ジオツーリズム協会 note より）

②ツアー造成	令和4年度に公共交通機関とジオガイド協会が連携して開発した企画商品を静岡県観光商品シートに商品12本を掲載。
--------	--

ウ DMO 連携等推進事業

DMO としての形成確立計画の策定や情報収集および観光人材育成のための取組の推進を実施した。

事業名	概要
①DMO としての形成確立計画の策定および関係機関との連携	・ 令和4年度 DMO 事業報告および観光誘客のターゲットを見直した DMO 形成確立計画を作成し観光庁に提出。(7/27) ・ 中部運輸局管内 DMO ミーティング (7/13) ・ 中部運輸局 DMO ヒアリング (9/29) ・ DMO 形成確立計画の静岡県統計部分を追記し、観光庁に提出。(1/11)
②観光人材育成のための取組の推進	・ 静岡大学東部サテライト講義「伊豆半島のインバウンド戦略」講師：林田常務 (8/25) ・ 日大国際関係学部 伊豆観光文化論講義「ユネスコ世界ジオパークの持続可能な伊豆半島」講師：辻研究員 (9/27) ・ 日大国際関係学部 伊豆観光文化論講義「伊豆半島のインバウンド戦略」講師：林田常務 (10/11) ・ 東急ホテルズ&リゾーツ株式会社主催 台湾インバウンド勉強会「台湾インバウンドの現況と今後」講師：林田常務 (2/9)

エ 観光に関する住民満足度調査事業

伊豆半島7市6町の住民向けに、観光客の受け入れや地域への愛着に関するアンケート調査を実施し、地域住民の意識を調査分析し、住民満足度の向上を図るため実施した。

事業名	概要
①観光に関する住民満足度調査の実施	・ 伊豆半島7市6町の住民向けに、観光客の受け入れや地域への愛着に関するアンケート調査を実施。 ・ 期間：11月～12月、回答数：3,211件 ・ 設問：静岡県令和4年度県政インターネットモニターアンケート第6回の一部を参考に設定。 ・ 対象：7市6町住民 ・ 主なもの：観光客の受入れについて「ぜひ来てほしい」が全体で58%、県全体29%と比較して高かった。「あまり来ないでほしい」などの否定的な意見は全体で4%、県全体(18%)と比較して低かった。伊豆地域の観光客の受入意識は高い。

(3) 評価と改善

ア 「ジオリゾート伊豆」ブランディング推進事業

①経営理念およびブランドスローガンの周知

周知の結果：新規加入 正会員2、賛助会員1

全体（3/31 現在） 正会員 108、賛助会員 145

②観光防災に関する取組の推進

観光防災意識の向上を図る講演会を実施。今後は、能登半島地震の教訓等を踏まえ、観光の立場からの防災対応を進める。

イ サステナブルツーリズム事業

ジオガイドが地域の価値を伝えること、そのための技術を学びジオガイドのスキルアップに一定の効果があつた。サステナブルツーリズムの考え方は全てのツアーに携わる者が共通して意識していくべき項目であることから、今後はジオガイド養成事業、ツアー造成事業等の中で推進する。

ウ DMO 連携等推進事業

①DMO としての形成確立計画の策定および関係機関との連携

観光庁への定期的な手続きの実施。

当センターの発展のため他 DMO との連携、交流を進める。

②観光人材育成のための取組の推進

2 大学 1 法人で計 4 回講義を実施。今後も人材育成と地域発展のため協力する。

エ 観光に関する住民満足度調査事業

住民満足度調査を実施。全体の回答数は 3,211 件で目標数 3,000 件を上回った。令和 5 年度の調査結果を「ふじのくに地域・大学コンソーシアム」に客観的な分析及び解決策の提言を依頼し、センター運営に活用する。令和 6 年度は引き続きアンケート調査を継続実施。

(4) DMO としての K P I の設定について

ア 令和 4 年度の DMO の目標達成度評価

観・観・観 K P I 項目	令和 4 年度 (2022 年度) 実績	目 標 (KPI)	目標比	前年度実績	前年度比
①旅行消費額	264,342 百万	215,131 百万	122.9%	186,539 百万	141.7%
②延べ宿泊者数	9,614 千人	8,295 千人	115.9%	6,953 千人	138.3%
③来訪者満足度	99.3%	98.0%	+1.3%	98.8%	+0.5%
④リピーター率	73.2%	67.0%	+6.2%	74.4%	-1.2%
⑤W e b サイト	16,206 PV/月	90,000PV/月	18.0%	34,605 PV/月	46.8%
⑥観光交流客数	36,931 千人	32,662 千人	113.1%	26,168 千人	141.1%

①コロナ禍でも、県外宿泊者の一人当たり消費支出額以外は前年度と比較し若干増加。

②行動制限見直しにより、前年度比 38.3% の増加。（コロナ前の令和元年度比 ▲10.5%）

③「大変満足」「ほぼ満足」は前年度比 0.5% 増加。このうち、「大変満足」は 1.2% 増。

また、「宿泊施設のサービス」、「食の魅力」のポイント増。かつ、旅行中の移動に関して、「非常に不満」が 0.2 ポイント減少。

④ 3、4 回目以上来訪者割合の減少に伴い、全体のリピーター率も減少。

⑤アクセス数は、前年度比 46.8%。

⑥行動制限見直しにより、令和3年度比41.1%の増加。

イ 令和5年度（2023年度）～令和8年度（2026年度）のKPI設定について

前述、目標達成度評価を踏まえ、令和6年度（2024年度）以降のDMOとしてのKPI設定を行った。

年度 K P I	令和5年度 2023年度	令和6年度 2024年度	令和7年度 2025年度	令和8年度 2026年度
旅行消費額	249,339百万	284,356百万	320,211百万	336,786百万
延べ宿泊者数	9,505千人	10,715千人	11,925千人	10,000千人
来訪者満足度	98.0%	98.0%	98.0%	98.5%
リピーター率	67.0%	67.0%	67.0%	73.5%
W e b サイト	100,000PV/月	100,000PV/月	100,000PV/月	100,000PV/月
観光交流客数	37,460千人	42,258千人	47,056千人	47,000千人
住民満足度① (観光客の受け入れに前向きである住民の割合)	65%	66%	67%	70%
住民満足度② (住む地域に対して誇りや愛着を持っている住民の割合)	88%	89%	90%	90%

2 観光総合開発事業

(1) 事業概要及び目的等

伊豆半島の新しい観光テーマの創出や流通促進を図るため、テーマ別の観光コンテンツを造成し、ターゲットに直接響く商品造成に資する取組を実施する。

(2) 事業実施状況

ア 旅行プログラム施策及び流通促進事業

伊豆半島ジオパークを中心とした地域の魅力的なコンテンツを活用した商品（プログラム）開発を行い、観光消費の受け皿づくりを進めた。教育旅行向けプログラム策定に特化した事業を実施した。

項目	概要
①ジオ教育プログラムセールス、現地視察	伊豆半島ジオパークをテーマに高校生向け教育旅行で使用する探求学習教材「伊豆×探求」を活用した教育プログラムを推進。 ・「伊豆×探求」第1回勉強会の開催。 (9/19：伊豆市38名、9/20：伊東市17名、9/21：下田市22名) ・ジオガイド向けの「伊豆×探究」第2回勉強会を開催 (令和6年2月16日：伊豆市17名) ・現地視察（1/25・26：宮城県松島町、参加者11名）
②伊豆の旅コンテンツ	伊豆半島への誘客ツアーを造成・販売した旅行会社等インセンティブを付与することにより、旅行会社等における伊豆半島への知見を深めるとともに、継続的な誘客を企図。 ・早春の伊豆満喫キャンペーン 対象：旅行会社の関西エリア等69支店

	期間：11/1～12/15 インセンティブツアー（令和6年1月22日～24日）参加者数：12名
③その他新たな団体旅行プログラム策定	・伊豆半島への教育旅行をPRするプログラムを策定。 ・教育旅行誘致のため静岡観光協会が作成する冊子に掲載。

イ 観光事業者採用支援事業

宿泊事業者の人手不足対策の一環として、新卒者を対象とした合同会社説明会を開催した。また、県内及び首都圏の大学や専門学校と伊豆半島宿泊事業者との調整を行い、インターンシップの受け入れをサポートした。

事業名	概要
①伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会	日程：令和6年2月15日（木） 会場：東京都立産業貿易センター台東館6階 対象：2025卒の大学生、短大生、専門学校生 出展事業者：12社（熱海市3社、伊東市2社、下田市1社、伊豆市2社、東伊豆町3社、西伊豆町1社） 来場者数：13校16名 延べブース来訪者105名
②インターンシップ等のマッチング	県内及び首都圏の学校、関係団体より希望があり、下記のとおり伊豆半島宿泊事業者との調整。 ・医療ビジネス観光福祉専門学校 インターンシップ 8～9月にインターンシップを実施。宿泊事業者1社が2024年3月卒業予定の学生を受入。 参加学生：2名 受け入れ宿泊事業者 東伊豆町1社 ・千葉県の子葉モードビジネス専門学校で学内説明会が10月20日に開催され、伊豆地域からは宿泊事業者2社が参加。 学生数は約100名（ほぼ留学生）で、参加企業は20社。 参加宿泊事業者 伊東市1社、東伊豆町1社

ウ ワークेशन推進事業

令和3～4年度にかけて実施した受入側現状調査やフリーランスの方々の意識調査を活用した情報発信等を行い、平日の宿泊施設の稼働率の向上、関係人口の創出を図った。

事業名	概要
①ワークेशन推進事業	・当センターで作成したワークेशन特設サイトをベースにコンテンツ制作を行い、昨年度実施したフリーランスを対象としたアンケートの調査結果を踏まえた現地取材を実施。（11月） ・域内ワークेशन施設の新規・更新情報を踏まえホームページを作成。（2月） ・取材内容を反映させたフリーランス向け、法人向け特集記事を作成し、特集記事に関連したSNS情報発信の実施。（2月）

エ 伊豆半島満足度調査事業

伊豆半島の経済構造を人々の満足度の観点から多面的に把握するため、アンケート等を実施した。

事業名	概要
①伊豆半島満足度調査	伊豆半島を訪問した観光客に対し、観光に関するアンケート調査を実施することで、伊豆旅行に関する満足度や消費行動を調査し、地域経済の活性化に貢献。 期間：令和5年7月1日～令和6年2月29日 広報：チラシ2万枚作成、フリーペーパーに掲載 回答数：2,426件（目標回答数：3,000件） 調査分析：調査結果を分析し、今後の施策の基礎資料を作成。 完了3月末、結果報告はWEBに掲載。

(3) 評価と改善

ア 旅行プログラム施策及び流通促進事業

①ジオ教育プログラムセールス、現地視察

現在の教育旅行は「探究学習」の要素が求められていることから、ジオガイドを中心に探究学習の研修を行った。これにより伊豆半島ジオパークの上に成り立っている経済や社会・文化が探究学習の素材として価値があることを認識する場となった。

令和6年度は伊豆半島内の複数地域で探究学習の素材を整理していくとともに教育旅行誘致に向けてのエージェントセールスを実施する。

②伊豆の旅コンテスト

ツアー紹介のため旅館関係者同行のもと旅行会社支店を訪問した。その後のキャンペーン時におけるツアー申込の結果が想定より低かったことから、申込増に向け検討する。（予定20名。結果12名）

イ 観光事業者採用支援事業

①伊豆半島ホテル温泉旅館合同会社説明会

令和3年度の参加学生49名、令和4年度の参加学生37名、令和5年度の参加学生16名と年々参加学生が少なくなっている。関東圏の宿泊業を志望する学生の傾向として、シティホテルの志望が多いことや、自宅から通える範囲にある企業を優先していることがあり、伊豆地域に意識が向きづらくなっていることが参加数減少につながっていると思われる。今後は、伊豆地域や宿泊業のみに囚われず他地域・他業種との共同開催を視野に入れ進める。

②インターンシップ等のマッチング

人材確保につながることから申し出には積極的に対応する。

ウ ワークेशन推進事業

域内ワークेशन施設の新規・更新情報を踏まえたホームページを作成するだけでなく、一般社団法人プロフェッショナル&パラレルキャリア・フリーランス協会に取材を依頼し、特集ページの監修や情報発信などを行った。令和6年度は、昨年度特集記事の作成を行ったところ法人研修等の需要があることから、新規事業として企業×地域マッチング事業を行う。

エ 伊豆半島満足度調査事業

将来的な観光消費額の増加を図るための基礎資料を収集することを目的として、令和5年7月から来遊者を対象としたアンケート調査を実施した。食事（海鮮）、施設入場（観光施設等）、土産（水産物：生鮮食品）において、来訪前後の予算額に目立ったギャップ（機会損失）が見られる結果が得られた。

傾向は、令和4年度2月に実施した調査と同様であることから、令和6年度の実施にあたっては、ギャップの事由を収集する設問を設けることとする。また、併せて伊豆半島ジオパークの認知度調査を行う。

3 伊豆半島サイクルフレンドリー事業

(1) 事業概要及び目的等

「サイクリングリゾート伊豆」のブランドPRを、サイクリスト（自転車家）のみならず、観光客や地域のサイクリング初心者等へ訴求させるため、SNSプロモーションを実施し、特設サイトへの誘導促進をするなどの広報活動を実施する。

(2) 事業実施状況

ア サイクリングリゾート伊豆PR事業

伊豆半島におけるアクティビティの一つとしてPRするとともに、自転車をきっかけとした来訪者の増加を図るため、サイクリストがコース情報を求めて集まるサイクリイベントに参加し、伊豆の魅力の情報発信を実施した。

項目	概要
①SNS プロモーション	レンタサイクルが可能なスポットとそこからのモデルコースや絶景ポイントなどを発信した（12月～2月）。
②イベントへの出展	東京ビッグサイトで開催された日本最大級のサイクリングイベントであるサイクルモードの静岡県ブースに出展し、コースを探すサイクリストに対して伊豆のPRを実施した。 （4/15～16：2日間で20,000人が来場） イオンモール熱田（名古屋）で開催された東海エリア最大の自転車イベントに出展し、伊豆半島のコースのPRとSNSフォローキャンペーンを行った。 （3/16～17：2日間で200件のフォロワー獲得及び1,200件のリーチ数を獲得。）

イ 伊豆半島一周サイクリング開催事業

伊豆半島一周約200kmを走行するコースを設定した。これを広く周知するため、「ツールド」というアプリを活用したサイクルボール（期間型イベント）にコース（名称：「伊豆いち」）を登録した。

全国の有名なサイクリングコースとともにサイクリスト向けにPRを実施した。

項目	概要
①サイクルボール「伊	期間型サイクリングイベントに引き続き参画し、コース選定や受

豆いち」	入態勢を構築し、集客を企図。 プレシーズン（4/29～7/31）、本シーズン（8/1～1/31） 新規サイクリスト集客のため、SNS等を活用したPRを実施。 事業完了：令和6年1月末 参加者数：令和5年度301名 「伊豆いち」スペシャルチャレンジデイを開催。賞品や参加賞、サポートカーを手配し、1DAYイベントを開催。 実施日：1/28（参加者数44名）
②サイクルボール優待店制度導入	サイクリストに向けて地域の特色ある物産品をPRし、消費喚起のため、参加店舗がサイクリスト向けに優待を受けられる仕組みを導入した。登録：4店舗

ウ E-bikeの聖地化推進事業

東京2020オリンピック自転車競技大会の会場地であり、起伏に富んだ魅力ある地勢の伊豆半島を気軽に楽しむため、E-bike（電動アシスト自転車）の聖地としてPRするとともに、アクティビティの一つとして、観光客や地域住民に広く周知した。

項目	概要
①E-bikeを活用した観光プロモーション動画制作	若年層をターゲットに、旅先のアクティビティ、移動手段として、E-bikeを活用したサイクリングツアー（モデルコース）をPRする動画を製作した。（12月） 撮影地：伊豆市及び伊豆の国市（狩野川流域） SNS、YouTubeでの配信、「いい伊豆みつけた」へ出演（2月～3月）した。
②E-bikeを活用したツアーの実施	・婚活をテーマとしたモニターツアーを催行（12月） ・ふじのくに出会いサポートセンターと連携し、E-bikeを活用した婚活ツアーを実施した。（2月） 参加者定員12名を達成、うち2組がマッチング。

エ サイクリングエリア交流事業

サイクリング先進地とのサイクリスト相互交流を目的に事業を実施した。伊豆半島のサイクリングコースをPRし、サイクリストの来訪増加を図った。

項目	概要
①台湾国際ロータリークラブ3480地区自転車隊受入	訪日台湾ロータリアンの国際交流、継続交流及び被災義援金などの温かい支援と友情に応えるため、伊豆半島を代表し歓迎式典を開催した。 開催日：4月14日 場所：みしまプラザホテル 出席：台湾側45名、日本側42名、通訳1名
②「エロイカ・ジャパン」開催支援	・ヴィンテージ自転車愛好家が海外からも参加するサイクリングイベント「エロイカ・ジャパン」（5/13～14）の開催にあたって、「エロイカ・ジャパン」実行委員会（名誉会長：豊岡武士当センター会長）の一員として、事務局業務の一部を支援するなど、伊豆への継続的な観光誘客策として運営に関わった。

	開催地：伊豆半島を巡るコース（伊豆市発着） 4つのコース、13のエイドステーションを配置 開催支援：地元調整、後援、エイドステーション運営、資材搬入等、備品調整等 参加者数：224名（内32名が外国人） ・「エロイカ（イタリア）」（ガイオーレ市）への参加 継続的な大会誘致及び相互交流のため、発祥地の視察を兼ねて国際ヴィンテージ自転車イベント「エロイカ（イタリア）」に参加し、伊豆をPRした。 期間：9月26日～10月5日 派遣職員2名（大会運営の視察及び競技等に参加） 参加者9千人、観客等5万人 【次年度開催に向けての以下の会議に出席】 エロイカジャパン総会（7/23） 第1回実行委員会（9/19） 第2回実行委員会（11/2） 住民説明会（11/24） 関係する行政職員に向けた説明会を実施（2/7） ※その他各種打合に参加
--	--

オ 風景街道活用事業

日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」をPRするとともに、地域情報発信拠点である道の駅等と連携し、観光情報を発信した。

項目	概要
①風景街道活用事業	国土交通省（沼津河川国道事務所）と「なごみの伊豆 なごみの道」事務局（美伊豆）において、周知広報策を協議。（7月） 広報媒体（ドライブ・フォトスポットマップ）を制作。 完了予定：令和6年2月、作成部数：1万部

(3) 評価と改善

ア サイクリングリゾート伊豆 PR 事業

①SNS プロモーション

PR事業では発信だけではなく、SNSのフォロワー獲得のための取り組みを行い、獲得数の拡大を図った。

イ 伊豆半島一周サイクリング開催事業

それぞれテーマを設け、特色あるコース設定を行った。また、次年度に繋がる関係性を構築できた。

①サイクルボール「伊豆いち」

サイクルボールの「最難関への憧れ」を喚起・ブランド化に向けたコース設定やPRを行った。

ウ E-bike の聖地化推進事業

気軽なアクティビティである E-BIKE から生まれる「出会い」をテーマとし、少子化、移住促進等の地域課題解決の一環としての新たな取り組みを行った。

エ サイクリングエリア交流事業

①台湾国際ロータリークラブ 3480 地区自転車隊受入

伊豆への災害義援金やコロナ禍のマスク 寄付などの温かい支援を受けた同団体の来日を歓迎するための式典を催行した。その後も同団体メンバーの来日など、活発な交流を行っている。

②「エロイカ・ジャパン」開催支援

伊豆半島初となる「エロイカジャパン」の開催に協力し、地元調整や事故防止等を行うことにより、大会が良いイメージとして定着するよう働きかけが出来た。次年度に向け実行委員会との関係が構築できた。

オ 風景街道活用事業

風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」を PR する媒体を制作。絵文字や写真等によりわかりやすい内容とした。知名度向上のためイベント等や道の駅等における配架を実施し PR を進めていく。

全国の風景街道内における地位と認知度を向上させるため、関連会議等に積極的に参加し、好事例を発信するとともに、サイクルツーリズム推進では風景街道「ぐるり富士山」（静岡・山梨）等と連携し交流人口増を図っていく。

4 地域ブランド化事業

(1) 事業概要及び目的等

主要市場である首都圏の誘客施設及び県内の主要誘客施設において観光物産展を開催し、伊豆観光への機運醸成や伊豆半島内の相互交流を促進するとともに、EC サイト（電子商取引）を活用した特産品等の販路拡大を進め地域産業の振興に努めた。

(2) 事業実施状況

ア 伊豆半島食コンテンツ強化事業

主要市場等において認知度向上のための販売会や EC サイトの活用を実施した。

項目	概要
①観光物産展	伊豆ゲートウェイ函南 川の駅多目的広場にて半島内相互交流を目的に、観光物産展を開催。 【開催日】令和6年3月24日(日) 10時～15時 【出店者数】キッチンカー10店舗、テント16店舗 【来場者数】1,700人 【全体売上】約700,000円
②ECサイトの活用	ECサイトを活用し、伊豆半島物産フェアを開催 【開催期間】令和6年2月1日～29日 【参加店舗】47店舗 【内容】参加店舗の商品を対象とした1000円OFFクーポン（先着300回）を配布⇒即日で上限達成

イ 食資源による魅力発信

「伊豆の自慢プリン」の SNS 情報発信を継続的に運用するとともに、首都圏及び県内の商業施設等における観光物産展において観光 PR を実施した。

項目	概要
「伊豆の自慢プリン」	更なる魅力を掘り起こすため、情報発信体制の再構築や店舗との意見交換を実施。 ・ Instagram 投稿の運用委託 ・ プリン既存 Web ページの閉鎖に伴い、新規特集記事の制作 ⇒B-IZU ウェブサイト内特集記事に集約 ・ 店舗への個別訪問及び取材（10 月～11 月）

(3) 評価と改善

ア 伊豆半島食コンテンツ強化事業

①観光物産展

昨年度に引き続き「伊豆半島住む人・来る人感謝祭 in 川の駅」を伊豆ゲートウェイ函南で開催した。体験ブースでは、伊豆半島の魅力を PR したことで来場者への魅力発見・再確認に繋げることができた。準備期間が短く、事前広報が不十分であったため、準備期間も含めて計画的に実施する。また、イベント毎に地域や関係者と密接に連携し、住民及び観光客が伊豆の魅力を体感できるような仕組みづくりを検討する。

②EC サイトの活用

新たな取り組みとして、楽天市場内で「伊豆半島 Web 物産展」を 1 か月間開催し、伊豆半島内の事業所を集約して物産を販売した。先着 300 回分のクーポンを用意した結果、開催初日でクーポンが上限に達した。（物産展は自体は 1 か月間開催）今後はマーケット規模に余裕を持ったクーポン原資を検討する必要がある。

イ 食資源による魅力発信

「伊豆の自慢プリン」

Instagram 投稿を運用委託し、定期的な情報発信を継続することが出来た。各店舗へヒアリングを行い、今後の事業参画について確認するとともに、消費者の立場で登録店舗の精査を行い、新規に Web ページを制作したことでユーザビリティの向上をすることができた。店舗、商品の PR は SNS のみであったため、発信力をさらに高めるために動画の制作やイベントへの参加など、新たな施策を検討する必要がある。

3 国内観光誘客事業

(1) 事業概要及び目的等

伊豆半島の主要マーケットである首都圏等における観光キャンペーンの開催及び国内の大型観光展や、(公財)静岡県観光協会及び交通事業者と連携したリアルエージェント（旅行代理店）へのセールス等を積極的に実施し、公共交通機関の利用拡大、伊豆の魅力の発信及び誘客促進を図った。

(2) 事業実施状況

ア 国内観光事業

ターゲットである首都圏において定期的に観光 PR を実施した。併せて大都市圏におけるエージェントセールスを継続に行い、北陸新幹線延伸を踏まえた観光動線の変更を契機に関西マーケットにおけるエージェントセールスを強化した。

項目	概要
観光キャンペーン	・「富士山周辺うまいものフェア」 ららぽーと横浜への出展（4/21～23） イトーヨーカドー小田原店への出展（8/19～21） ・よこすかYYのりものフェスタ 2023 6月4日 来場者7万人 ・伊豆産直市への参画（予定を含む） 11月9日～11日（東京駅構内） 11月22日～24日（川崎駅構内） 12月5日～6日（大宮駅構内） 1月25日～27日（上野駅構内） 2月8日～10日（横浜駅構内） 2月21日～23日（武蔵溝ノ口駅構内） 3月18日～20日（鶴見駅構内） ・ケーブルフェスタ 2023（名古屋）10月7日～8日 ・大関ヶ原祭り（岐阜県関ヶ原）10月15日 ・ふるさと観光展 2023in 仙台 10月17日～19日 来場者700名 ・ツーリズム EXPO ジャパン 2023（大阪） 10月26日～29日 伊豆半島ブース出展 ※商談は別に記載 ・伊豆箱根ふれあいフェスタ 11月23日 ・JAF スタンプラリー（期間：10月～12月） コースはアイデアコンテストで選定（県内大学生のアイデア） ラリーポイント：伊豆半島内7か所 参加者200名

イ 県観光協会及び交通事業者等と連携したエージェントセールス、説明会

項目	概要
①エージェントセールス	・2023年下期 JR 東日本観光素材旅行会社向け説明会 4月26日（JR 東日本本社、参加企業20社69名） ・ふじのくに静岡観光大商談会 大阪 9月6日（参加者52社、商談者11社） 東京 9月27日（参加者99社、商談者12社） ・仙台エージェントセールス 10月15日（仙台市、商談先4社）

②関西圏へのセールス	・ 関西等のエリア別エージェントセールス（7/25 11 店舗） ・ ツーリズム EXP0 ジャパン 2023（大阪） 10 月 25 日～26 日（商談先 11 社） ・ エージェント向け広報物の作成（ポスター100 部） ・ 大阪市内のエージェントセールス 10 月 25 日～26 日（10 店舗）
------------	---

ウ 渋滞緩和支援（夜の旅コンテンツ HP 特集）

項目	概要
①渋滞実態調査	交通状況の把握の一環として実態調査を実施。 伊豆急下田駅から東急東横線綱島駅（横浜市）までの 174 km、所要時間 3 時間を区間設定。調査車の実走は国道 414 号から伊豆縦貫道・東名・首都高を利用し、出発時間（16 時発、19 時発）をずらしたものの。 ○ゴールデンウィーク（実施日：5/6） 16 時発の実走時間は 4 時間。伊豆半島内は渋滞無し。東名駒門 PA～横浜青葉（通過 102 分/通常 75 分）において渋滞あり。 19 時発の実走時間は 3 時間。渋滞無し。 6 時発と 19 時発の所用時間の差は 1 時間。 ○年末年始（実施日：1/2、1/3） 16 時発の実走時間は 5 時間。伊豆半島内は渋滞無し。東名駒門 PA～横浜青葉 IC（通過 160 分/通常 75 分）において渋滞。 19 時発の実走時間は 4 時間 48 分。東名駒門 PA～横浜青葉（通過 170 分/通常 75 分）において渋滞。 16 時発と 19 時発の所用時間に小差あり。 ○河津桜まつり（実施日：2/18） 16 時発の実走時間は 4 時間 45 分。河津七滝 IC～市山信号（通過 70 分/通常 26 分）、修善寺道路～塚原 IC（通過 50 分/通常 25 分）において渋滞発生。 19 時発の実走時間は 3 時間 30 分。市山信号（東京ラスク付近）を先頭に道の駅「天城越え」間（通過 60 分/通常 12 分）で渋滞発生。 16 時発と 19 時発の所用時間の差は 1 時間 15 分。
②滞在時間延長コンテンツ収集	夜景・天体観測・イルミネーション等のコンテンツ収集を実施し、美伊豆ホームページに特集記事を作成。 伊豆半島イルミネーション特集（8 施設）。 夜景・天体観測等は各施設や名所等を紹介。

エ 伊豆半島 13 市町を紹介する伊豆総合パンフレット等

項目	概要
パンフレット制作	・伊豆半島ドライブマップ 増刷 18,500 部 ・「旅に飛び出せキャンペーン」メインパンフレット 制作部数 2 万部

オ 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」ゆかりの地推進事業

大河ドラマのレガシーを活用した観光を推進するため、本年放映の静岡、浜松が舞台の「大河ドラマ」撮影地等と連携し、伊豆半島への誘客と周遊促進を目的とした事業を実施した。

項目	概要
レガシーの活用	・歴史・文化資源を活用した広域連絡会 静岡県観光交流局主催、(6/9 WEB 参加) ・歴史と文化を活かした意見交換ワークショップ 静岡県東部地域局主催、(7/8 ほか 3 回参加) ・デジタルスタンプラリー (1/13～3/10、13 か所) 伊豆半島の大河ドラマゆかりの地を巡るスタンプラリーを実施。 参加者数 216 名

カ ペットに優しい伊豆の旅調査推進事業

ペットツーリズムによる観光振興を図るため、ペットと宿泊可能な施設やペットと共に楽しめる施設等を調査し、ペットに優しい伊豆の旅を PRするとともに、伊豆半島の観光情報を発信した。

項目	概要
市場調査及び PR	ペットと共に旅行をする旅行者の受入態勢整備や、観光消費額の向上を図るため、宿泊、食事及び観光をペットと共にできるような施設について調査及び PR を実施。 【調査期間】 2023 年 9 月～11 月 【調査施設】 320 件 (各市町 30 施設を条件設定) 【新規ウェブサイト】 伊豆ドッグツーリズム W-izu DOG https://b-izu.com/w-izu_dog/

(3) 評価と改善

ア 国内観光事業

国内観光事業については、下半期にイベントが集中してしまったため、次年度以降上期の内容を増やす必要がある。

①観光キャンペーン

夏の伊豆半島は有名な海水浴場が多くあることをメインに通年の誘客促進を目指す。

イ 県観光協会及び交通事業者等と連携したエージェントセールス、説明会

①エージェントセールス

JAF との連携は、費用対効果から考えても有効だと判断できた。

②関西圏へのセールス

- ・大阪ツーリズムエキスポは、全国の観光地がブースを出展しており、伊豆半島としての強みをアピールしにくい環境だった。6年度は関西圏への営業を追加し、新規エリアの開拓は継続する。
- ・名古屋における観光イベントでの現地反応が好評であり、伊豆への旅行意欲もアンケート回答から高いこと、来訪回数が少ない傾向であることが判った。交通アクセスの問題はあるが、次年度向けに引き続き PR の機会を設け来訪者を増やしていきたい。

ウ 渋滞緩和支援（夜の旅コンテンツ HP 特集）

①渋滞実態調査

6年度以降は、広域課題である観光客等の集中を分散し伊豆半島内における回遊性の向上策を検討するため、位置情報データ等を活用した季節ごとの主要な観光施設における人流調査を実施し、評価内容等の結果を市町と情報共有する。

エ 伊豆半島 13 市町を紹介する伊豆総合パンフレット等

①パンフレット制作

パンフレット作成については、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、第5類への移行から相当数の配布が各イベントで実施出来た。駅構内など移動途中に立ち寄った方向けに手に取りやすい、一回り小さいサイズの新規パンフレットを検討する。

オ 大河ドラマ「鎌倉殿の 13 人」ゆかりの地推進事業

①レガシーの活用

スタンプラリーを実施し遠方からの参加者が半数近くあり、また、コメントからは好評な意見が多数だった。10 エリアをチェックインした参加者も多く、周遊促進に繋げることが出来た。

カ ペットに優しい伊豆の旅調査推進事業

①市場調査及び PR

ペットに優しい伊豆の旅調査推進事業については伊豆半島内のペット関連施設を調査することで伊豆をペット連れ旅行者にとって魅力的な観光地にするための情報発信材料の収集を行うことができた。ペット同伴可能な宿泊施設や観光施設のさらなる増加や、ペット連れ旅行者向けの情報発信の多言語化、ペット同伴イベントの充実、ペットのマナー啓発活動の強化等各施設の課題について検討する。また、今後はペットの飼い主に対してアンケート調査等を行い、「ペットツーリズム」のニーズを調査分析する必要がある。

4 インバウンド（外国人観光客等誘客）事業

(1) 事業概要及び目的等

「伊豆」全体を包括的に PR し、海外における「伊豆」の認知度を向上させる。誘客に繋がる着地型旅行商品の開発や旅行会社等を通じた商品販売を促進した。

(2) 事業実施状況

ア インバウンド向け情報発信事業

件名	対応（時期）
①TSJ（静岡県観光協会海外マーケティング課）マーケティング研修	TSJ が開催する DMO を対象とした対象地域別のマーケティング方法に関する研修へ参加。（5～8月）
②台湾 Youtuber 取材対応	地元事業者と連携し、台湾インフルエンサー（Linda loves cycle）による伊豆取材に対応。（8月）
③B-IZU（英・繁）コンテンツ拡充	公式ホームページにおいて、ハイキング特集（英）・伊豆旅行記（繁体字）を追加。
④台湾西拉雅国家風景区による視察への対応	台湾観光署（観光庁に該当）西拉雅国家風景区代表及び地域の観光事業者代表 14 名による日本 DMO 視察に対応するとともに同団体に対する伊豆半島の観光 PR を実施。（9月）
⑤SAVOR JAPAN 現地審査	静岡県と連携し、SAVOR JAPAN※認証のため現地審査に訪れる審査員に対し、当センターのインバウンド事業の取組を説明。（7/18） 上記審査の結果、富士山麓・伊豆半島地域が SAVOR JAPAN の認定を受けたことに伴い開催されたキックオフミーティング（ブラサヴェルデ、約 100 人参加）にて、植松専務理事がパネルディスカッションに参加し、伊豆半島のインバウンド誘客戦略について説明。（11/20）※農泊食文化海外発信地域（農水省）
⑥「エロイカ（イタリア）」における伊豆半島観光プロモーション事業	イタリア・ガイオーレ市で行われる国際ヴィンテージ自転車イベント「エロイカ（イタリア）」において、伊豆半島の観光プロモーションを実施。ガイオーレ市長表敬訪問。（9/26～10/5）
⑦豪州インフルエンサー取材対応	静岡県観光振興課と連携し、豪州インフルエンサー（NOMADAURUS）による県内の文化・歴史をテーマとした取材に対応（わさび田 E-bike ツアー、10月）
⑧Japan Rail Fair 2023 特設サイトにおける伊豆半島 PR	JR 東日本シンガポール事務所が開催するイベント「The Japan Rail Fair 2023」に併せて開設される、同イベント特設サイトにおいて伊豆半島観光 PR を実施。（10/13～15）
⑨台湾メディアに対する観光 PR	台湾エキスポ in 日本（東京）に併せて来日した台湾メディア 30 人が参加した沼津内浦地区 E-bike ツアーに合わせ、沼津市とともに伊豆半島観光 PR を実施。（9月～10月）
⑩台湾、高雄でのエージェントセールス	静岡空港への高雄からのチャーター便の就航に合わせ、静岡県が開催する商談会への出席及び、現地エージェント（旅行代理店）へのセールスを実施。（1月）

件名	対応（時期）
⑪台北サイクル 2024 における伊豆 半島 PR	アジア最大の自転車産業展示会「台北国際自転車見本市（台北 サイクル 2024）」における JAPAN ブースへの出展。（3/6～3/9） 静岡県 4 ブース（伊豆は 2 ブース） Instagram フォロワー獲得数 1, 193 名

イ インバウンド向け旅行商品開発事業

件名	対応（時期）
①ランドオペレータ ー※と連携したプレ ミアムミニツアー造 成	・台湾向けのプレミアムミニツアー（小規模高級旅行商品）の 造成に向けた提案資料の作成。（7 月） ・ランドオペレーターを訪問し、連携方法等に関する打合せを 実施。（7 月） ・台湾準富裕層を対象としたプレミアムミニツアーの販売促進 を実施。（2 月） ・訪日インバウンド事業のコンサルティング業務やガイド派遣 を行っている合同会社観光ラボを対象としたファミトリップ 実施。（8 月） ※旅行会社の委託を受けて海外旅行の現地手配を行う会社（法人）
②台北プレミアムミ ニツアーセールス及 び JR 東日本と連携 した台湾オンライン ツアー・伊豆半島セ ミナー	○富裕層向け商品（小規模高付加価値ツアー）を展開している 現地旅行会社 5 社訪問し、モデルコースを用いたセールスを 実施。（2/26～29） ・R6. 5 月に富裕層専門旅行会社の下見 1 社決定 ・R6. 11 月に大手新聞社招待旅行（19 名/伊豆 4 泊）決定 ○インフルエンサーによる伊豆取材及び当該取材を基にしたセ ミナーと台北市内ホテル及び河津桜まつり会場をつないだオ ンラインツアーに協力した。（2/28） 台湾会場セミナー参加者：92 名 Facebook 中継視聴者：650 名
③タイ FIT フェア・ エージェントセール ス	静岡県東南アジア事務所、浜松市と連携し、JNTO 主催の訪日旅 行フェア（FIT フェア 10/6～10/8、バンコク）に出展するとと もに、現地エージェント等へのセールスを実施。日系企業の報 奨旅行や訪日リピート客をメインに個人旅行の誘致を図った。 期間：10/2～10（セールス 10/3～5）
④静岡県ベトナムフ ァムトリップ	静岡県東南アジア事務所が主催するエージェントを対象とした ファミトリップ（下見招待旅行）において伊豆観光素材の説明 を実施。（10 月）
⑤イギリス旅行会社 ファミトリップ対応	静岡ツーリズムビューロー（TSJ）と連携し、イギリスの旅行会 社 6 社を対象としたファミトリップを実施。（11 月）
⑥静岡県インバウン ド旅行商品商談会	静岡県観光協会と連携し、在日ランドオペレーター向けの商談 会に参加し、8 社と商談。（12/6）
⑦ベトナムエージェ ントセールス	ビザ要件の一部緩和を契機に、ホーチミンの旅行会社を訪問し 企業等の報奨旅行や、団体旅行の誘致を図った。（3/6～9）

ウ インバウンド向け旅行販売事業

件名	対応（時期）
①台湾観光署・台湾観光協会視察対応	台湾観光署長（観光庁長官に相当）、台湾観光協会会長（JNTO 会長に相当）ら 5 名による伊豆半島視察へ対応。（5/13～14）
②台湾トップセールス	当センター理事及び首長らとともに訪台し、台湾最大の国際旅行博「台北国際旅展」にて台湾観光協会との包括的連携協定の調印式を実施、旅行会社、国際ロータリークラブ 3480 地区自転車隊等を訪問。（11/3～5）
③伊豆半島海外向け旅行商品販売促進	観光消費につなげることを目的に、訪日外国人（FIT）に向けた地域の魅力の発信を実施。 KKday の台湾・香港の会員向けメディア（ブログ等）に観光記事を掲載するとともに、KKday の旅行商品販売プラットフォームにおいて、伊豆観光商品をオンライン販売した。 期間：1 月～3 月
④K K day 連携販売促進	包括的連携先の KKday と協働で伊豆半島内施設販売の協力施設等の開拓及び旅行商品販売を実施した。 令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月 92,770 名販売（前年比 122.6%） （うち、44,420 名（47.9%）が美伊豆仲介 10 施設実績）

(3) 評価と改善

- ・令和 5 年度には、台湾観光協会へのこれまでの取組みや親交が実を結び、包括連携協定を結ぶに至った。その調印式には、伊豆半島の多くの首長が参加し、伊豆半島一体となつての台湾市場への更なる取組のきっかけとなった。
- ・台湾だけでなく、タイ・ベトナム・イタリアへのセールス、またオーストラリア、イギリスのファムトリップ受入などをそれぞれの国の来日状況を把握するとともに、伊豆半島の海外での認知度向上と旅行会社等との関係構築を行うことによって、団体旅行や個人旅行等様々な旅行者獲得への取組を行った。伊豆半島には、富裕層向け、団体向け、家族向け等様々な観光施設、宿泊施設があるため、今後も多種多様な旅行者へ向けた取組を継続する。
- ・ファムトリップの受入等、突発的な対応を求められることが多く、計画的に事業を実施することが課題の 1 つであること、英語圏へ向けたパンフレットチラシ等が更新できていないことが課題であるため、次年度はファムトリップの受入についての検討と情報発信事業との連携によって課題解決に努めたい。
- ・K K day 連携販売促進
令和 5 年度の販売実績を踏まえ、令和 6 年度は販売目標を 10 万人に設定し、取組を拡大していく。

5 伊豆半島報発信強化事業

(1) 事業概要及び目的等

伊豆半島への旅行前や滞在中における観光情報サイト等への閲覧数が低い状況を踏まえ、閲覧者の更なる利便性の向上を図るため、伊豆半島の観光情報を横断的に発信するWEBサイト「伊豆半島観光情報サイト B-IZU」の記載内容を充実し、相互にリンクしている13市町の観光ページへの誘導を促進する。また、周遊ルート案内サービスアプリ「Japan Concierge」を活用し、市町の観光ページと連動した周遊ルート案内サービスを行い閲覧者等の利便性の向上を図る。

(2) 事業実施状況

ア 情報発信強化事業

13市町や交通事業者等と連携し、伊豆半島の一体的な情報発信を行うとともに、周遊ルート案内サービスアプリ「Japan Concierge」を改良し、旅行前・滞在中の観光情報収集の利便性向上や、伊豆半島内の周遊を促進した。

項目	概要
①美伊豆公式 HP の充実	・各イベントの情報の掲載や、月毎の13市町のイベントを取りまとめて掲載し、伊豆半島全体での包括的な情報発信を行った。 4月イベント情報（伊豆の国市、沼津市 2市） 6月イベント情報（三島市、伊東市、伊豆の国市 3市） 7月イベント情報（西伊豆町、伊豆の国市、函南町、河津町、三島市、伊東市、熱海市 4市3町） 8月イベント情報（伊豆の国市、伊東市、三島市、函南町、伊豆市、西伊豆町、河津町 4市3町） 9月イベント情報（熱海市、南伊豆町、西伊豆町、伊東市、河津町 2市3町） 10月イベント情報（下田市、熱海市、松崎町、河津町 2市2町） 11月イベント情報（伊東市、西伊豆町、熱海市、河津町、松崎町、伊豆の国市 3市3町） 12月イベント情報（熱海市、下田市、伊東市、河津町 3市1町） 1月イベント情報（熱海市、伊豆市、伊東市、伊豆の国市、下田市 5市） 2月イベント情報（河津町、南伊豆町、熱海市、伊東市 2市2町） 3月イベント情報（東伊豆町、河津町、伊豆市、三島市、沼津市、伊東市、熱海市、函南町、南伊豆町 5市4町） ・組織体制やブランドイメージの修正を行った。（随時） ・特集記事の作成 伊豆半島海水浴場特集（7月） 海辺の安全対策特集（8月）

	伊豆半島ハイキング特集（第1弾）（8月） 伊豆半島ハイキング特集（第2弾）（9月） 伊豆半島花暦（冬編）（1月） 伊豆半島MVロケ特集（2月） 伊豆半島さくら情報特集（3月） 伊豆半島花暦（春編）（3月） ・伊豆の名産品特集記事8本を作成（8月～令和6年3月） ① 潮かつお（西伊豆町） ② 原木しいたけ（伊豆市） ③ 栄久ぼんかん（松崎町） ④ 真鯨（沼津市内浦） ⑤ わさび（伊豆市） ⑥ ところてん（伊豆市） ⑦ キンメダイ（東伊豆町） ⑧ いちご（伊豆の国市） ・OTA（online travel agent）を活用した自社ウェブサイト流入促進 東南アジア最大級の会員数を有するKKdayと連携し、伊豆半島の観光情報の拡散及びB-IZU公式サイトへの流入の実施。KKdayブログ記事へ投稿、Instagramストーリー投稿、X（旧Twitter）投稿、会員向けアプリプッシュ広告配信、会員向けメールマガジンボトムバーナー配信の実施。（令和6年2月～3月） 【アクセス数（概数）】 4月：20,383件、5月：21,929件、6月：19,816件 7月：23,947件、8月：26,948件、9月：23,709件 10月：24,787件、11月：25,558件、12月：22,853件 1月：27,812件、2月：34,665件、3月：35,909件 HPアクセス数306,269件（4月～3月/前年比160%増）
② Japan concierge の継続運用	・更新及び継続運用 ページアクセス数 4,751件（4月～3月）
③パブリシティ	・プレスリリース49件（4月～3月）
④「えきねっと」後追 いメールとの連携	JR東日本の実施する「えきねっと」後追いメールと連携し、その週末の伊豆のおすすめ情報等を掲載。 （7/15～9/22 全9回） 合計閲覧数：383回

イ SNS等を活用した情報発信事業

InstagramやX（旧Twitter）等のSNSを活用し、効果的な情報発信を実施するため、F1層（20歳～34歳の女性）をターゲットにした、SNSプロモーションやSNS活用法とその効果を理解し、効果的な情報発信を図るための研修会を実施した。

項目	概要
①SNS プロモーション	・ F1 層をターゲットにした SNS への投稿 フォロワー数 Instagram : 10,588、X (旧 Twitter) : 11,000 (3/31 時点) ・ 投稿内容の変更 直近のアルゴリズムの傾向をもとに、「映え」重視の内容から顧客の求める「情報」を含んだ投稿内容に変更。アルゴリズムへの影響力の強い「保存」件数を増加させ、より多くの顧客に届くような投稿を実施。
②SNS セミナー	・ 美伊豆会員を対象とした無料セミナー開催 各 SNS の特長やユーザー属性、運用におけるターゲットの設定方法やインスタグラムを中心としたアルゴリズムに基づく効果的な投稿方法等について説明。(11/28 参加団体 : 26)

(3) 評価と改善

ア 情報発信強化事業

①美伊豆公式 HP の充実

令和 4 年 4 月 1 日のリニューアルに伴うドメイン（インターネット上の住所）変更によりアクセス数が伸び悩んでいたが、特集ページの作成やニュース及びイベント情報の拡充を実施、OTA を活用した自社ウェブサイト流入促進を図ったところ 306,628 件とリニューアル前のアクセス数に迫る数値まで回復してきた。しかし、リニューアル前を超えるには至っていない。今後、観光物産展などのアンケート結果を踏まえたコンテンツの特集記事を作成するなどアクセス数向上に努める。

イ SNS 等を活用した情報発信事業

①SNS プロモーション

F1 層をターゲットに主な検索エンジンである Instagram を中心にアルゴリズムに沿った発信を行うことで、フォロワーは 600 近く増やすことができた。しかしながら、目標フォロワー数には及ばない結果となったことから、今後は定期的かつ継続的な情報発信を行い、フォロワーの獲得及び保存数の増加を図っていく。

6 ジオパーク基本計画・行動計画推進事業

(1) 事業概要及び目的等

ジオパーク基本計画・行動計画は、2020 年ユネスコ世界ジオパークとしての行動基本計画として策定されたジオパーク活動の基本指針となるものである。

令和 5 年度には、「ESD（持続可能な開発のための教育活動、以下「ESD」と表記する）活動基本方針」を策定し、市民対話や大学や高校と連携した新たな取り組みにも着手している。

引き続き、基本計画に基づき、施策の柱である教育活動に取り組むとともに、新たな学習指導要領を踏まえた探究学習としてのジオパーク教育教材の利活用を図る。

また、美しい伊豆創造センターとの統合後に策定した 3 か年活動計画（2023-2025）に基づく事業も実施している。

(2) 事業実施状況

ア ジオガイド養成事業

①ジオ検定実施

伊豆半島の成り立ちや歴史、文化、社会などを楽しみながら学ぶジオ検定で、平成 24 年度にスタートし、本年度 12 回目の開催。3 級検定は書籍やインターネットで調べながらマイペースで受験ができるため、家族や職場単位での受験が増えている。本年度は伊豆伊東高校や富戸小学校の参加も含め 583 名の受験があり、合格者は 548 名であった。

また、令和 6 年 1 月 14 日（日）に 1 級・2 級のジオ検定を三島市、伊豆市の 2 会場で実施した。25 名が受験し、1 級合格者（50 点満点中 45 点以上）はなし、2 級合格者（同 35 点以上）8 名であった。

地質遺産の保護と活用から始まったジオパークであるが、昨今は生態遺産や歴史・文化遺産、更には持続可能な開発目標（SDGs）まで活動の幅が広がり、こうした知識も問われるジオ検定 1・2 級は受験者のチャレンジ精神も刺激している。

②ガイド養成事業

伊豆半島ジオガイド協会に委託し、認定ジオガイドのスキルアップ講習や資格更新講習を行った。

スキルアップ講習は、特定非営利活動法人 静岡ユニバーサルツーリズムセンター長橋 正巳 氏他 4 名に依頼し「障がい者」を対象とした観光ガイディングの必要性や理論、手法について学ぶセミナー&ワークショップを実施した。定員は 30 名としたが、重いテーマの為参加者は 9 名にとどまった。

今年度資格更新講習は 3 期の認定ジオガイドが対象で対象者 30 名の内 22 名が参加（うち 4 名は別日に講義映像を視聴）、他 3 期以外のジオガイドにもオープン参加で 42 名が参加した。講習内容は理事である静岡大学小山真人教授に依頼し「能登半島地震を読み解き、伊豆の未来を考える」と題し講演をいただいた（1/21）

③ジオカフェ等開催事業

ジオパークの普及啓発を目的に、地域の資源とジオパークの視点を通じ、楽しく学び、交流の場づくりとなるジオカフェ等を定期的の実施した。

項目	概 要
ジオカフェの開催	・「いのちの点灯夫であれ」（7/16）参加者 19 名 会場 修善寺ジオリア 登壇者 理学療法士 河原氏、静岡大学内山講師、遠藤研究員 ・「三嶋の神のモノガタリ」（8/26）参加者 47 名 会場 三島市 登壇者 國學院大學 深澤教授・吉永助教

	関連したウォーキングイベントの実施 下田市白浜 (10/21) 参加者 35 名 三島 (11/4) 参加者 32 名 ・「気のいい火山弾」(9/16) 参加者 11 名 会場 修善寺ジオリア 登壇者 絵本作家田中氏 遠藤研究員 ・「街道がつないだ工芸」(9/24) 参加者 14 名 会場 三島市 登壇者 コレクター金子氏 職人：篠原氏、辻氏 箱根ジオパークの協力のもと実施。 ・「おんせんはたいへん IN 河津」(11/25) 参加者 30 名 会場：河津町 福田家旅館 登壇者：SPAC伊豆の踊子主演 女優 河村若菜さん、日本温泉地域学会 赤池勇治氏、辻研究員 ・「ふじさんマルシェ」(2/23) 三島楽寿園での開催事業に参加 ・「園芸部の二人」(3/10) 参加者 21 名 ジオ文豪カフェとして実施 会場：修善寺 I T J Base 登壇者：長泉町出身 詩人 水沢なお さん、静岡大学山本准教授、佐々木研究員
--	---

④学校教育等との連携事業

ジオパークでの教育の対象は、大人から子どもまで全ての世代であり、教育活動は単に岩石や地層の知識を学ぶのではなく、大地の生い立ちと人々の歴史や暮らし、そこから生まれる産業、文化とのつながりを学び、地域の良さや魅力に気づき郷土愛を育む活動として位置づけている。

また、ジオガイドが学校現場と連携してジオ学習を通じて故郷の良さを学び、持続可能な地域づくりの担い手を育成することができる「学校現場でジオガイドするための手引き」を活用し、より良いジオ学習の取り組みを行うほか、生涯学習でのジオパークの普及等に取り組んでいる。

特に令和 5 年度は、ユネスコ世界ジオパーク再認定時に示された指摘事項「地域コミュニティの参画」を進めるために、ESD 活動に力を入れて取り組んだ。

市民協働活動の先進地域視察や事務局と地域のジオ活動関係者との対話（ジオキャラバン）、地域内の高校生や大学で取り組む「探究学習」や「プロジェクト型学習」と地域内の地域づくり活動者との交流発表会などである。

ア 教育ワーキングの開催

2022 年度から開催していた 2 つの教育ワーキング（ESD 戦略グループ・教育普及グループ）の議論内容を、5～6 月にかけてそれぞれ取りまとめ、中期戦略やアクションプランの答申を行い、答申概要は理事会で報告。

イ ジオ教育教材を活用した学校でのジオ学習の推進

各市町教育委員会の協力を得て、教育マンガ冊子「伊豆半島のひみつ」を構成 15 市町の 5 年生約 5,200 名に配布。(5 月)

教育通信の 27 号発行 (6 月)・28 号発行 (3 月)

ウ ESD (持続可能な開発のための教育) 活動拠点としての活動

新たな試みとして「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」を開催。(11/12) 高校・大学・一般の 6 グループが発表し、活動の課題や困りごとを 5 名のメンターと他の発表者と共に考察。

(発表者) 沼津商業高校、松崎高校、静岡大学地域創造学環、(株)いへのあかり、合同会社 so-an (メンター) 伊藤博隆氏 (関東地方 ESD 活動センター)、天野浩史氏 (ふじのくに未来財団/大正大学)、西島俊則氏 (大東紡エステート(株))、堀井成美氏 (沼津信用金庫)、山本隆太氏 (静岡大学)

・「関東 ESD 活動拠点研修会」への参加 (1/27) (会場 東京 青山ウィメンズプラザ)

関東地域で ESD 活動拠点として取り組む 49 のネットワーク事業に参加した。

「持続可能な地域づくりのための発表・交流会」と伊豆急行との連携事業として取り組んだ SDGs トレイン (現在も運行中) について事例発表を行った。

ジオパーク活動が、市町や地区等の様々な境を超えて人々が出会う仕掛けづくりになること、地方創生の器となり得ることを紹介した。

・ESD 書籍の編集 (令和 5 年秋から令和 6 年夏)

令和 6 年冬に伊豆半島で開催予定の全国研修会でジオパーク関係者を対象としたテキストの編集作業に取り組む。ジオパークとは何か、ユネスコがジオパーク活動に期待する「持続可能な地域 (開発) の最前線」であるジオパークは、何より地域に愛され楽しめる活動でなければならない。常に、地域に必要とされているジオパークであるか、自問自答しながら活動をしている伊豆半島ジオパークにとっても今後の活動の指針となる書籍の編集に取り組んだ。(編集・発行は静岡新聞社、令和 6 年 8 月末の発行を予定している)

エ 小・中・高校・特別支援学校等との学校連携による普及活動

(a) 小・中学校…令和 5 年度の実施校は小学校 11 校、中学校 7 校、小中一貫校 1 校特別支援学校 1 校

高等教育との連携・普及

(b) 高等学校等

○韮山高校

- ・理数科 1 年次を対象とした地球科学研修 (7 月座学、9 月フィールドワーク)
- ・理数科 2 年次課題研究 (地学班) の指導 (通年) 研究発表会 (3 月)

○沼津商業高校

- ・2 年次観光コミュニケーションコース生徒、3 年次地域研究講座履修生を対象とした研究や授業の指導 (通年)、協力。

・いずっぱこジオトレイン

沼津商業高校生が「いずじいじといくジオの秘境」を題して、おすすめサイトを紹介するシールを電車内に掲示。ヘッドマークも新ジオトレインマークとなる。12/3 に運行を開始。

12/18 に修善寺駅で出発式開催。本年 10 月まで毎日運行予定。

○稲取高校

1 年次探求学習への協力（6 月座学・フィールドワーク）

○沼津聴覚特別支援学校

1 年次総合ビジネスコース・職業コース生徒を対象とした授業（SDGs）の指導（11/17）

(C) 大学等

以下の大学等において授業や研究支援、公開講座での講演等への講師派遣や連携事業に取り組んだ。

静岡県立大学（4 月）

放送大学（7 月）

日本大学国際関係学部（9 月）

同経済学部宮地ゼミ（8～9 月）

ふじのくに地域大学コンソーシアム（11 月）

教員研修 2 回（田方地区教育研究会理科部：8 月、三島北高校：10 月）

オ ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣事業

ジオ学習の普及の課題に、ジオガイドへの講師料負担という課題があったことから新規にジオ学習に取り組む学校のジオ学習のガイド講師料を初年度のみ助成する制度を令和元年度に創設。既存の実施校に加え、10 月までに新規 2 校でのガイド派遣を行い、ジオ学習の新規普及を企図。

・新規実施校

5 月 函南町立東中学校 1 年生 145 名

10 月 熱海市立桃山小学校 5 年生 5 名 計 150 名の児童・生徒を対象

カ 防災（減災）事業

伊豆東部火山群防災協議会（事務局：伊東市）への参画（6 月対面、8 月書面、2 月）

静岡県立大学自然災害研究部門研究会への参画（4 月、8 月、10 月）

⑤ジオツーリズム促進事業

伊豆半島の各地や拠点となるビジターセンターを活動拠点としたジオガイドツアーは昨年 10 月に実施されたユネスコ世界ジオパークの再審査でも高い評価を受けた。

本年度も自然環境の保全と活用、環境にやさしくアフターコロナを見据えた取組を行っている。また県が昨年度に重点施策として進めた公共交通機関を活用したサステナブルツーリズム事業の商品造成をはじめ、ジオガイドの資質向上と持続可能な活動のために、次世代ガイド養成事業にも取組み、ツーリズムの担い手であるジオガイドの人材育成に取り組んだ。

項目	概要
①次世代ジオガイドリーダー養成事業	伊豆半島ジオガイドの若手・中堅から次世代のリーダーとなりうる人材を6名選抜し、JGN 全国大会等への視察及び優良ガイドを講師とした研修に参加し、他のジオパークで実施している先進事例を学び、ジオガイドとの情報交換を行うことで持続可能なジオツーリズムを推進するガイドを養成。 ・佐渡ジオパーク 10 周年記念イベント（7/7～8：2名） ・中部ブロック大会（苗場）（9/20～21：2名） ・JGN 全国大会（銚子）（10/28～30 3名） ・サステナブルツーリズムガイド研修 （11/4～5：富士宮市、11/18～19：伊豆市 6名） ・伊豆大島ジオパークガイド研修（12/10） ・隠岐ジオパーク研修（1/17～18 1名） 上記の参加者による世界認定5周年記念事業の会場において報告会の実施。（3/10） ・南紀熊野ジオパークフェスタ参加（3/2～4 2名） 上記への参加・研修を行った6名のジオガイドによる世界認定5周年記念事業において、ミニジオガイドツアーガイドや報告会などの実施。（3/10）
②ジオガイド教育事業	・伊豆半島ジオガイド協会に委託し、認定ジオガイドにジオツーリズム促進のための教育事業としてセミナー形式の研修やツーリズム等に参加するフィールド研修を計7回実施。 ○セミナー形式 ・伊豆半島の成因と淡水魚の分布（ジオリア 7/5 16名） ・インタープリテーション（解説活動）を考えよう （ジオリア 7/10 21名） ・一次救命処置研修 （第1回：下田市 3/17 12名 第2回：沼津市 3/19 8名） ○フィールド研修 ・溶岩地形と海の多様性研修：スノーケリング（伊東市 10/31 12名） ・三嶋の神のモノガタリ（東京都國學院大學博物館 11/15 7名） ・ジオパーク秩父で学ぶ大人の遠足（秩父・長瀨 12/10 13名）
③エコツーリズム促進事業	・旧伊豆半島ジオパーク推進協議会では、ジオサイトや生態系の自然資源を保全しつつ活用するための基本的な枠組みを定める「伊豆半島エコツーリズム全体構想」の策定の取組。 ・令和4年4月の組織統合を機に、エコツーリズム主管官庁である環境省と対応を協議し、組織継承を踏まえ、基本的には従来の基本構想を推進。 ・ジオパーク委員会において、構想の概要、経過報告（7/5） ・市町担当課長にアンケート調査を実施。（9月）

	・環境省と「旧ジオ協」で策定した全体構想をベースに必要最小限の見直しをしつつ、交通事業者、ジオガイド関係者との協議を実施。 (11月～3月) ・ジオパーク委員会で構想全文配布 修正内容の確認依頼 市町からの修正指摘箇所修正。(12/12) ・県タクシー協会伊豆部会への参画依頼(1月) ・ジオパーク委員会で全体推進構想全文案及びエリア図を提示し、内容について意見照会。(3/19) ・美伊豆企画運営委員会(構想の概要を説明。3/19) ・美伊豆理事会事前協議を行う推進全体構想案の全文・(自然観光資源リスト含む)及びエリア図を配布し、概要を説明。(3/28)																		
④ジオツアー実施等活動事業	・令和5年度において、ジオパーク活動として構成市町、関係活動団体を対象に実施したジオパーク活動の概要は以下のとおりであった。報告対象は研修会、ジオツアー、イベント開催、教育活動等である。 <table><tr><th>区 分</th><th>活動件数</th><th>延べ参加者数</th></tr><tr><td>ジオツアー</td><td>1 3 2</td><td>2 0, 1 5 7 人</td></tr><tr><td>イベント出展</td><td>3 2</td><td>1 2, 3 5 6 人</td></tr><tr><td>研修会・講演会</td><td>5 4</td><td>4, 7 4 9 人</td></tr><tr><td>教育活動</td><td>4 1</td><td>3, 6 9 8 人</td></tr><tr><td>計</td><td>2 8 9</td><td>4 0, 9 6 0 人</td></tr></table>	区 分	活動件数	延べ参加者数	ジオツアー	1 3 2	2 0, 1 5 7 人	イベント出展	3 2	1 2, 3 5 6 人	研修会・講演会	5 4	4, 7 4 9 人	教育活動	4 1	3, 6 9 8 人	計	2 8 9	4 0, 9 6 0 人
区 分	活動件数	延べ参加者数																	
ジオツアー	1 3 2	2 0, 1 5 7 人																	
イベント出展	3 2	1 2, 3 5 6 人																	
研修会・講演会	5 4	4, 7 4 9 人																	
教育活動	4 1	3, 6 9 8 人																	
計	2 8 9	4 0, 9 6 0 人																	

(3) 評価と改善

ジオパーク活動全般については、上記のとおり、域内の様々な活動団体が、自主的に事業に取り組んでくれ、延べ参加者が4万人を超え、ジオパーク活動の普及に貢献できた。

また、以下の基本計画にかかる主要事業についても従前の課題を踏まえ取り組み、関係市町や会員、ジオガイドや地域の関係者の協力により概ね計画どおり実施をすることができた。

ア ジオガイド養成事業

①ジオ検定実施

ジオ検定については、2012年(平成24年)の開始時からの述べ受験者数が本年度末で6,525名となった。コロナ禍により一時、受験者数が減少したが、600～700名の受験者で安定している。近年は、学校において学年単位で地域の資源や魅力を学ぶ取組としての受験も見られる。引き続き、本検定を通じジオパーク活動の普及に努めたい。

②ガイド養成事業

4月に改正障害者差別解消法が施行されたことから、ジオガイドとして法施行の意義や対応についてスキルアップ講習として実施し、今後想定される実際の現場でのガイドに役立てるための講習となった。ジオガイドのスキルアップ講習であったが、9名の参加にとどまった点は課題として、今後は参加しやすい会場、日時、方法などを精査して企画していきたい。

③ジオカフェ等開催事業

- ・ジオカフェ等の開催に伴う地域連携による普及啓発事業については、地域福祉、地域に根差した信仰、地域に伝わる工芸、文学など、人文系のテーマを多く扱い、ジオパークとの関連性を考える場を提供することができた。
- ・ジオカフェについては、様々な地域の活動と連携した取組が計画的に行われたところであるが、他のジオパーク連携企画、企業連携事業等とも重複しないよう計画的な企画に取り組む必要がある。

④学校教育等との連携事業

ア 教育ワーキングの開催

- ・組織改編に伴い、ジオパーク推進協議会の教育部会の継承組織体会議として「教育普及」と「ESD 戦略」2つのワーキンググループを立ち上げた。それぞれの委員には地域や各分野のスペシャリストを招き入れ、当組織の中長期計画にも貢献できる素地を作ること成功した。

イ ジオ教育教材を活用した学校でのジオ学習の推進

- ・ジオガイドが学校現場と連携してジオ学習を通じて故郷の良さを学び、持続可能な地域づくりの担い手を育成するために作成した「学校現場でジオガイドするための手引き」を活用し、各学校の意図する学習に取り組むことができた。

ウ ESD（持続可能な開発のための教育）活動拠点としての活動

- ・「ESD 活動」は今後のユネスコ世界ジオパークとして、地域づくりを担う人材育成に不可欠な取り組みである。国内のジオパークで初めて、ジオパーク活動を担う方々を対象とした「ジオパークとしての ESD 活動のあるべき姿を考えるテキスト」の編集作業に着手した。

エ 小・中・高校・特別支援学校等との学校連携による普及活動

- ・中学校の理科の授業において、伊豆半島やふるさとの自然や生き立ちを学びつつ、身近な課題や地域の魅力を中学生の視点でジオ学習の成果をまとめたポスター作品をジオリアで展示できたことは、長年のジオ学習の大きな成果である。愛郷心を育む素材として、今後もジオパーク活動が貢献できるようサポートができれば良い。
- ・沼津商業高校では、令和5年度に開設された「観光コミュニケーションコース」において、伊豆半島ジオパークをテーマとしたガイドスキル習得、ジオサイトでの学習を通じ高校生によるジオツアーの催行を行うなど、地域資源を活かした新たな取り組みを清水町や関係団体と共にサポートができた。

オ ジオ学習新規導入学校への講師無償派遣事業

ジオ学習新規導入で無償派遣制度を活用し、函南町及び熱海市において新規のジオ学習が実施され、今後の普及に期待できる実績を残すことができた。

本制度については、これまでの成果と併せ特に教育関係への周知が何より重要であるので、積極的かつ定期的に情報発信をする必要がある。

カ防災（減災）事業

- ・伊豆半島東部火山群対策協議会（事務局：伊東市）に当法人の小山理事と参画し、「伊豆東部火山群・伊東市広域避難計画」の改定に全面的に協力した。改定後の計画において、平時からの取組として、減災・防災意識の教育等に明記し、位置づけることができた。

本事例を機に、他の市町での防災計画等の改定に際しては、ジオパークにおける活動を平時の対策として位置づけてもらえるよう取り組む必要がある。

- ・令和6年度は伊豆半島沖地震から50年を迎えることや能登半島地震を教訓としてジオの視点での減災・防災事業の推進も必要である。

⑤ ジオツーリズム促進事業

ア 次世代ジオガイドリーダー養成事業

ジオツーリズム養成事業については、ジオツーリズムを実施するジオガイドの中から次世代のリーダーとなり得る人材を育成するため、全国各地のジオパークで活動するジオパークでの大会等に積極的に参加し、ガイドの技術習得を図り、成果は3月に開催されたユネスコ世界ジオパーク認定5周年記念事業の際に、ポスター発表を行った。参加ジオガイドにとってもジオガイドに有益であったとのコメントがあったことから、ジオパーク活動の中核人材としての活躍が期待される。今後も継承したい。

イ ジオガイド教育事業

本年度取り組んだ、ジオガイドのスキルアップ講習等の課題を踏まえ、引き続きジオガイド向けの研修等を開催し、多様化するジオパーク活動に対応できるガイドの養成に取り組んでいく。

ウ エコツーリズム促進事業

エコツーリズム推進事業は、旧ジオパーク推進協議会において事前協議まで終了した「伊豆半島エコツーリズム推進全体構想」について、新組織として必要最小限の修正を行い、関係機関との連携のもと作業に取り組んできた。環境省のサポートもいただき、ジオガイドや新たに公共交通機関等にも本構想への参画と連携をお願いしており、今後の自然及び文化資源の保全と活用を通じ、地球環境に優しいツアーによる誘客を図るガイドラインとして期待している。

エ ジオツアー実施等活動事業

既に、ジオガイドによる様々なジオツアーが催行されている。引き続き、地域資源を活かしたツアー造成に取り組む。本年度は、伊豆急行㈱と沿線ジオガイドが連携し、古道等のガイド付きトレイル商品化の検討にも着手することができたので、本格的な商品化に向け取り組んでいきたい。

7 ジオパーク調査研究事業

(1) 事業概要及び目的等

地球科学をはじめとする研究員による活動。ユネスコ世界ジオパーク活動でも研究員の専門分野の研究は重要な活動である。本年度も3名の専門職員（研究員）がそれぞれの専門分野で研究活動を進めている。令和5年度は8月に人文地理学の研究員が退職し、10月より生態学・環境学を専攻する研究員が着任した。

また、他のジオパークの研究員とのネットワーク活動や伊豆半島にかかる様々な研究にかかる研究助成制度を活用し、伊豆半島をフィールドとした新たな研究への取組に対し支援した。

(2) 事業実施状況

ア 研究関連活動事業

専門職員による各専門分野の研究関連活動として、情報収集に係る費用を支援。

3名の研究員が取り組んでいる研究概要は以下のとおり。

- ・伊豆半島の無形文化遺産の研究（データベースの構築・情報発信）辻研究員
- ・伊豆半島の地質学の研究（伊豆半島南部における地質研究）遠藤研究員
- ・伊豆半島の生物多様性の研究（データベースの構築・情報発信）佐々木研究員

研究員の主な研究成果

○書籍（共編）

『ジオパークから始まる地域づくり・担い手づくり（仮題）』静岡新聞社 2024年

【分担執筆】

辻 修次（2024）「ジオパークと文化多様性」 上記書籍第5章

辻 修次（2024）「星座早見盤-ジオパークの魅力と可能性」 上記書籍第8章

○発表

TSUJI Shyuji (2023) 'From fossilization to revitalization- two approaches to fishery heritages in the Izu Peninsula, Japan' 10th International Conference of Geopark., Marrakech: Morocco.

辻 修次（2024）「地方創生の舞台としてのジオパークー地域と世代を超えて出合いつな
がる場の創出に向けて」 関東ESD活動推進センターほか一般向け講義7件

<遠藤大介研究員>

○書籍（共編）

【分担執筆】

遠藤 大介（2024）「ジオパークと自然環境ー気候変動と生物多様性からのアプローチ」

上記書籍第4章

○著書

國學院大學博物館 特別展「三嶋の神のモノガタリー焼き出された伊豆の島々」図録分担
執筆箇所 序章P.5-8, 論考P.52-53

<佐々木恵子研究員>

○『ジオパークから始まる地域づくり・担い手づくり（仮題）』静岡新聞社 2024年

【分担執筆】

佐々木恵子（2024）「ジオパークと自然環境ー気候変動と生物多様性からのアプローチ」

上記書籍第4章

イ 研究活動支援事業

伊豆半島ジオパーク学術研究助成制度に基づき実施。伊豆半島をフィールドに調査・研究しようとする研究者に最大30万円（3件程度）を助成。

今年度は以下の2件の研究課題を採択。研究成果は来年3月開催のユネスコ世界認定5周年記念イベントにて発表した。

- ・伊豆半島南部、蛇石大池湿原の形成史と環境変遷史の高精度復元

研究者 大阪公立大学大学院・大下愛央氏

- ・伊豆半島ジオパークを利用する渡り鳥の環境の把握と季節変動～最新のA I 技術を導入した録音機器を用いて

研究者 長崎大学大学院・天野孝保氏

ウ GGN（グローバル ジオパーク ネットワーク）・APGN（アジア太平洋 ジオパーク ネットワーク）・JGN（日本ジオパークネットワーク）活動事業

ユネスコ世界ジオパークにおいて、ネットワーキングはジオパークの核心となる理念である。経験の共有や共同事業の構築は伊豆半島ジオパークにおいても積極的に取り組んでいるところである。

2023 年度も、GGN、APGN、JGN などをはじめとしたジオパーク同士のネットワーク活動に積極的に参加し、事例発表や連携事業の実施等、ユネスコ世界ジオパークとしての責務を果たすことができた。

件名	対応（時期）
①GGN（グローバル・ジオパークネットワーク）事業への参加	・年次報告書 2023 Annual Report” の提出（4 月） ・ユネスコ/GGN イベント 新規認定世界ジオパーク歓迎イベントのオンライン参加（6/6） ・第 10 回ユネスコ世界ジオパーク国際会合及び年次総会への参加（モロッコ王国マラケシュ 山下副会長、植松専務理事、他職員 2 名）（9/5～15） 総会会場にて、2022 年世界ジオパーク再認定に係る認定証・記念品を受領。 ・世界ジオパーク 20 周年プログラムへの参加（3 月）
②APGN（アジア太平洋ジオパークネットワーク）事業への参加	・本年度は国際会合開催年につきアジア太平洋会合は開催されず。（2024 年度にベトナムで開催予定） ・敦煌（中国）世界ジオパークより姉妹協定の打診を受け、検討。
③日本ジオパークネットワーク（JGN）事業への参加	・第 29 回理事会（4/21） （会場 東京砂防会館 菊地副会長、植松専務、他職員 1 名） 理事による国関係省庁への要望事項について 2022 年度 JGN 事業報告（JGN 加入は 53 地域・169 市町が参画） 2023 年度 JGN 事業計画 PR 動画作成・ジオパーク周遊アプリ作成 ・JGN 運営委員会（会場 千葉幕張メッセ 職員 1 名）（5/20） ・ユネスコ再認定審査にかかる情報共有及び JGN 中期計画について ・JGN 通常総会および理事会・ジオパーク議連総会（5/30） （会場 東京参議院議員会館 菊地副会長、植松専務・金刺部長） 白山手取川ジオパークが国内 10 か所目のユネスコ世界ジオパークに認定された旨の報告。

件名	対応（時期）
	全国大会について（10/28～29）（メイン 銚子、サブ 秩父） ・ 山陰海岸ユネスコ世界ジオパークから「域内の鉱物販売」を理由にイエローカードが示され、現状を課題共有。 ・ 佐渡ジオパーク 10 周年記念事業（7/7～8） （会場 佐渡市 職員 2 名、ジオガイド 2 名出席） 基調講演、分科会、ジオツアーに参加。 ・ 子ども霞が関オンラインジオツアー対応（8/2） （会場 ジオガイドが修善寺温泉場より映像とガイドで紹介） ・ 中部ブロック大会（9/20～21） （会場 苗場山麓ジオパーク：職員 2 名、ジオガイド 2 名席） 基調講演、事例発表、ジオツアー参加。 ・ JGN 運営委員会出席（10/27） （会場 銚子市役所 職員 2 名出席） ワーキンググループより活動共有 地質物品販売ワーキング JGN 中長期計画「ネットワークの強化による活動の活性化」協議 ・ JGN 全地域事務局長会議（10/27 会場 銚子市役所 職員 1 名出席） 2023 年新規事業 ジオパーク周遊アプリの利用促進について、ジオパーク議員連盟による国への要望について、日本ジオパーク委員会報告 新規認定申請の蔵王は保留。 アフリカでの国際会議の報告 世界 50 か国から 1,500 名参加。 2024 年度全国大会が 8 月 30 日～9 月 1 日 青森県下北ジオパークで開催されることが発表。 ・ 第 13 回全国大会（銚子・秩父ジオパーク）（10/27～29） （山下副会長、職員 5 名、ジオガイド 3 名参加） 基調講演・分科会（首長セッション、教育等の分科会に参加） ・ 第 18 回全国研修会（2/7～9） （会場新潟県糸魚川ジオパーク 職員 1 名出席） テーマは、地質物品の保護と販売。ジオパークならではの取組を全国のジオパーク関係者が共有。 ・ JGN 役員地域事務局長会議（2/22） （会場 東京ジオパークネットワーク事務所、職員 1 名出席） 2023 年度事業報告・決算見込み及び 2024 年度事業計画・予算 新年度事業方針及び重点事項。 新規事業について 国への要望活動について

件名	対応（時期）
	・南紀熊野ジオパークフェスタへの参加（3/2～4） （職員2名 ジオガイド3名参加）
④海外からの視察等受入れ	・インドネシア西ジャワ州訪問団（アニメコンテスト優勝者等：9名）の視察対応（6/16） ・来訪目的 チレトゥー・パラブハンラトゥ・ジオパークと覚書を調印している伊豆半島ジオパークの視察。 今後も視察対応があれば、基本的には受け入れる方向で対応。

(3) 評価と改善

ア 研究関連活動事業

- ・研究員は、それぞれ研究計画を策定し、定期的に進行管理を兼ねた論文執筆に取り組んだ。
- ・静岡大学との包括連携協定に基づき、研究員が静岡大学の客員准教授となることについて静岡大学側の了解をとることができ、令和6年度以後、本格的に各研究分野における共同研究の可能性を広げることは大きな成果であった。
- ・本年度は研究員の入れ替えがあり、伊豆半島ジオパークとして初めて生態・環境分野の研究員を迎えることができた。昨年10月以後、伊豆半島エコツーリズム推進全体構想案の策定を機として、伊豆半島ジオパークにおける生物多様性の情報データベースの構築に着手して環境省等の関係機関との協力が得られる状況となった。

イ 研究活動支援事業

- ・研究助成制度については、引き続き早期募集により、ジオパーク活動に貢献できる世界レベルの新しい科学的知見の創出を図る。
- ・研究助成制度については、新年度は年度当初に募集を開始し、学術助成制度が伊豆半島での世界レベルの新しい科学知見創出に貢献できるよう告知、周知を徹底する。

ウ GGN（グローバル ジオパーク ネットワーク）・APGN（アジア太平洋 ジオパーク ネットワーク）・JGN（日本ジオパークネットワーク）活動事業

ネットワーク活動については、域内のジオパーク活動の関係者、パートナーシップを締結して取り組む事業所や研究機関、当法人の正会員や賛助会員、サポーターとの連携を密に、新たなネットワークの構築によりジオパーク活動が真に地域に根付いた活動となるような取組を支援する。

①GGN（グローバル・ジオパークネットワーク）事業への参加

初めてアフリカの地で開催された第10回ユネスコ世界ジオパーク国際会議及び年次総に参加し、賛意と貢献を示すため、市長と専務理事を含む4名の代表団を派遣した。世界ジオパークネットワークのトップとの交流、姉妹ジオパークの交流等、今後のネットワーク活動に大きな貢献をすることができた。また、各種オンラインで開催されたネットワーク企画イベントにも積極的に参加し、伊豆半島の活動の情報発信とネットワークの強化に努めることができた。世界ジオパークネットワークへの参画は重要な活動であることから、事務局のみならず官民の様々なチャンネルで持続可能な活動を念頭に取り組んでいく。

②APGN（アジア太平洋ジオパークネットワーク）事業への参加

静岡県と姉妹提携を持つインドネシア・西ジャワ州には伊豆半島と同時にユネスコ世界ジオパークに認定されたチレトゥーパラブハラントゥジオパークがあり、両ジオパーク間で連携協定が結ばれている。本年も協定に基づき、ジオリア内にて常設展示を行った。具体的な交流プログラムによる活動再開が当面の課題である。

③日本ジオパークネットワーク（JGN）事業への参加

令和6年3月末現在、国内には46のジオパークがあるが、理事会の出席をはじめ、運営委員会、事務局長会議、研修会等にも積極的に参加し、事例発表や課題の共有等により日本ジオパークネットワークの活動に貢献することができた。

④海外からの視察等受入れ

世界ジオパークネットワークの成長、特にアフリカのネットワーク拡大に貢献するため、西アフリカ・ガーナの視察団を受け入れた。今後も海外からの視察については、積極的に受け入れていく。

8 ジオパーク地域連携事業

(1) 事業概要及び目的等

令和5年度に地域連携事業として取り組んだ事業は、伊豆半島の様々な風景を描いたこども絵画展示コンクールの開催、パートナーシップ協定を締結している事業者間等の各種連携事業をはじめ、沼津市制100周年、清水町制施行60周年を記念して「伊豆半島ロゲイニング2024」が開催された。

(2) 事業実施状況

項目	概要		
ア 子ども絵画 コンクール	テーマ：「私たちの住む伊豆半島ジオパーク」		
	・応募開始 7月 応募期限 (9/15)		
	・域内の小中学校より107作品の応募。		
	・審査会を開催し、優秀作品決定(10/2)		
	・審査員 MOA美術館 戸田課長 三島信用金庫久保坂元気創造部長 他		
ア 子ども絵画 コンクール	・表彰式 (12/16) 受賞者30名、保護者70名が出席。児童生徒に表彰状を授与。		
	区分	最優秀作品	所属学校・氏名
	小学1～3年生の部	城山と狩野川	伊豆の国市立長岡南小学校 鴨下 旺生さん
	小学4～6年生の部	大地の闘心割狐塚	函南町立西小学校 佐伯 晃治さん
	中学生の部	南の桜	南伊豆町立南伊豆中学校 森 夏海さん

	・上記優秀作品を含めた優秀作品は以下の会場で巡回展を実施。 ①ジオテラス伊東②サントムーン柿田川③黄金崎クリスタルパーク ④伊豆ゲートウェイ函南⑤ジオリア⑥さんしん熱海ストリートギャラリー ⑦さんしん下田ストリートギャラリー
イ 地域活性化事業	パートナーシップ連携事業 ・ 韮山反射炉（伊豆の国市） 反射炉の日イベントにてワークショップを開催（7/8） ・ 静岡ガス㈱ 本年度は「海」をテーマに以下のワークショップを実施。 ・ 第1回ジオぱく 磯のお花見（4/22） ・ 第2回ジオぱく 幼魚（6/3） ・ 第3回ジオぱく 海藻と海草（7/17） ・ 第4回ジオぱく 深海魚（10/7） ・ 第5回ジオぱく 海のお仕事（1/8） ・ 静岡大学と包括連携協定を締結（2月） ・ 東部サテライトとの連携事業、研究員の学術連携を本格化。 ・ ESD 探究学習事業連携 ・ 東海自動車㈱との連携協定による研究活動への支援。 「うめえら、うめえらライト」の売上金の一部を寄贈。 令和5年度寄付金額：112,620円。 平成28年度からの寄付金累計が100万円を突破し、功労賞を贈呈。 ・ 國學院大学博物館 伊豆半島の自然や文化に関する調査研究を通じ、学術的な交流を深めるため令和5年秋に連携協定を締結。連携事業の一環として、特別展「三嶋の神のモノガタリ焼き出された伊豆の島々」を開催。 (9/23～11/19) 併せてウォーキングイベントを三島、下田で開催。（再掲） (三島：32名参加 11/4)(下田白浜：35名参加 10/21)
ウ 伊豆半島 ジオパークロゲイ ニング大会2024	開催日 3/23(土) 主会場 沼津市プラサヴェルデ 競技エリア：沼津市・清水町 参加者：97チーム、208名
エ 可視化事業	・ 新デザインのジオポロシャツ作製、販売（6月） 構成15市町にちなみ15色のポロシャツ 650着販売 現在もジオリア等で販売中 ・ SDGs トレイン 伊豆高原駅で運行式典開催(7/21)

	伊豆急ホールディングスとの連携事業。域内での SDGs 活動の取組 をストーリー化し、電車利用者へのジオパークと域内 SDGs 取組事業者の活動の情報発信を実施。 ・ いずっぱこジオトレイン（再掲） ・ 解説板の整備（市町対応事業 清水町、東伊豆町） ・ 各ビジターセンターによる情報発信事業・ユネスコロゴ掲示 ・ 函南ビジターセンター展示物作成（1 月）
--	--

(3) 評価と改善

ア 子ども絵画コンクール

こども絵画コンクールは、地域に住む小中学生がジオパークを知り地域の魅力を表現する点で、毎年工夫を凝らした作品が応募されている。表彰式には多くの児童生徒や家族が駆けつけてくれ受賞を喜んでくれた。絵画を通じて新たな魅力の創出に期待したい。

イ 地域活性化事業

- ・ 地域連携事業については、概ね当初の計画どおりの事業が実施できたが、それぞれの事業については、ユネスコ世界ジオパークが求める地域連携事業の取組を通じた持続可能な地域づくりへの貢献の視点から、相互連携による効果等の検証も必要である。
- ・ パートナリシップ事業も新たに國學院大學博物館との連携等広がりを見せた。ユネスコからの指摘事項である「大地」と「信仰」による新たなジオパークの可能性を見出すことができた。
- ・ 韮山反射炉（伊豆の国市）や静岡ガスとの連携イベント「ジオぱく」も歴史文化や食文化をテーマに活動も定着している。
- ・ ジオカフェワークショップの中には今回の事業に際しては、参加申し込みが伸び悩む事業等も見受けられ、ホームページやチラシ、ポスターの配架以外に、ターゲットを明確にした情報発信の必要性を感じた。
- ・ 今後も、関係団体より様々なパートナーシップ連携の申し出が想定されるが、限られたスタッフと予算のなかで、持続可能かつ双方に有益な事業展開を視野に、計画的に取り組むことが課題である。

ウ 伊豆半島ジオパークロゲイニング大会2024

事前の下見を行い設定されたチェックポイント（北はグルメ街道、西は西浦まで）生憎の雨模様であったが参加者の満足度は高かった。清水町役場での大福おもてなし、沼津市メイン会でののっぺパンが参加者にふるまわれ喜ばれた。本イベントは構成 15 市町の全エリアでの開催を予定しており、今後も本年度の課題を踏まえ、開催地の地域偏りがないうよう計画的に実施してゆくこととしたい。

エ 可視化事業

ここがジオパークであることが地域の方にも来訪者にも認知してもらう可視化事業は、様々な媒体による多様な情報発信が不可欠である。ジオサイトの解説板はもとより、ジオリアや各ビジターセンターでの情報発信も美伊豆への統合を機に更に強化が可能であ

る。県や市町や正会員の団体等では、ジオポロシャツを着用しての可視化に寄与していただいているところである。今後も、当法人とのパートナーシップ協定を締結している事業者や正会員、賛助会員、応援会員、ジオサポーターとも連携した可視化向上に取り組んでいきたい。

9 ユネスコ世界ジオパーク改善勧告対応事業

(1) 事業概要及び目的等

伊豆半島ジオパークは2018年国内9か所目のユネスコ世界ジオパークとなった。ユネスコ世界ジオパークは4年毎に審査を受けることとなっており、2022年10月再認定審査を受け、12月にユネスコの会議で再認定の決定がされた。

再認定の期間は2022年1月1日から2025年12月31日までの4年間である。昨年6月のユネスコからの通知に示された指摘事項は以下の5項目である。

①ジオパーク運営への市民参画②ガイドツアーの視認性の向上③地質・自然・文化遺産の相互連携④運営体制のジェンダーバランスの改善⑤域内生産者とのパートナーシップの構築。

2023年度は、これら指摘事項を踏まえ、最新の国際的潮流を適切に反映し、かつ地域の公益に一層資する事業を立案・執行した。

評価を受けた取組についてはさらにその活動を励行し、着実な定着を図り、持続可能な地域づくりの貢献に向け取り組んだ。

(2) 事業実施状況

ア 再認定対応事業

取組事業	概要
①ジオパーク運営への市民参画促進	ア 市民参画の場づくり ・ESD戦略ワーキンググループより、市民参画の促進に資する答申が提出された。同答申は理事会にも報告。本提言に基づき、住民参画型の中期計画立案、若者からの事業提案、ジオガイドや地域住民と事務局の対話を中期的方針として策定。(6月) ・住民参加型の伊豆半島ジオパークの次期中期計画立案に向け、市民参画事業の先進地である福山市の「未来協創塾」事業の視察を実施。(9/27～29) ・若者からの事業提案の機会として、地域の若者が社会問題解決事業を提案する「持続可能な地域づくりのための交流発表会」を実施。本会合の提案を元にした事業の立ち上げに引き続き取組。(11/12) イ 誰でも楽しめるジオパークに向けた取組(社会包摂の促進) ・順天堂大学病院の協力の下、終末期医療をテーマとする絵画展をジオアで実施し、ジオパークの新たな可能性を情報発信。(6/22～8/30)

取組事業	概要
	・聴覚特別支援学校でのジオ学習を実施。(11/17) ・ジオガイド協会のスキルアップ講座として、ハンディのある訪問者への対応を学ぶ講座を実施。(12/17・18) ウ ジオキャラバンの開催 ・伊東市・西伊豆町・南伊豆町の3か所でジオパーク事務局職員とジオガイドや地域の方々がより良いジオパーク活動につながるための意見交換会を実施。伊東市(2/1 実施) 西伊豆町(1/29 実施) 南伊豆町(2/3 実施)
②文化財及び文化（文学）の視認性の強化	・域内の信仰・祭祀、伝統芸能、宇宙観、口承（民話・歴史的記憶）を記録するデジタルアーカイブの構築を進め、本アーカイブと連動したデジタルマップを、2024年度初頭から公開予定。 ・域内の複数の文化財や自然遺産を繋ぎ可視化する「文学」「信仰」「歴史」などのテーマ散策路の性備に向け、関連の市町と協議を実施。
③地質と文化の関わりをストーリー化する	・連携協定に基づき、國學院大学博物館との共催にて企画展「三嶋の神のモノガタリ」を開催。(9/23～11/19) 豊岡会長が東京での企画展初日に往訪し、併せて協定書の交換式を実施。 —上記の企画展に係るトークショー、ウォーキングツアーを同大学の教員を招き実施。詳細は6-②事業実施状況を参照。 ・伊豆新聞の連載記事「伊豆の低山を歩く」にて、古代墳墓、中世城郭を地質との関連性に注目して紹介する記事を掲載。 ・熱川温泉を、高熱の源泉を利用するために蓄積されてきた無形の知識「湯守」を取り上げ、文化サイトとして新規登録。
④域内企業との連携に基づく地場産品振興	・静岡ガス株式会社との包括連携協定に基づき、地域の生態への理解を深めながら、深海魚や海藻など伊豆の水産資源の魅力を紹介する連続イベント「ジオぱく」を実施。詳細は8事業実施状況を参照。 ・松崎町の名産品である桜葉につき、商品としての魅力である芳醇な香りを科学的な視点から分析する研究が進行中。
その他 東アジア文化都市事業「伊豆文学祭」 「異郷としての	○県主催の「伊豆文学祭」と連携し、構成15市町で「伊豆のふるさとと文学2023実行委員会」を発足し、日本ペンクラブの企画監修事業として実施。 ・開催会場 伊豆の国市アクシスかつらぎ ・開催日 10月15日（日）異郷としての日本 ・県主催の連携事業 伊豆文学フォーラム、全国文学サミット IN

取組事業	概要
日本」事業実施	伊豆及びブッックマルシェ
	・内容 第1部 映像ライブ「鏡のなかのニッポン」 第2部 朗読芝居 井上靖原作「補墮落渡海記」 第3部 異郷としての日本～外国出身の日本文学作家によるシンポジウム
	・来場者数 約300名（県関連事業来場者を含む）
ユネスコ認定 5周年記念事業 の開催	○ユネスコ認定5周年を記念し、これまでのジオパーク活動を振り返り、今後の活動に向けた機運醸成イベントとして開催。 会場：修善寺総合会館 3/10（日）
	・次世代ガイドによる修善寺ジオツアー
	・おふるまいコーナー（おもち、みそ汁）
	・廃プラスチックでのアクセサリ作りワークショップ
	・功労表彰 東海自動車㈱に功労賞賞状と記念品贈呈
	・ジオパーク世界大会報告
	・小山真人教授の記念講演会 「伊豆半島ジオパークの歩みとこれから」
	・ジオパーク研究助成発表会
	・次世代ガイド成果発表 他（一部再掲）

イ 国際交流・協力事業（ユネスコ関係は7-③参照）

ユネスコ世界ジオパークとしての責務の一つである国際交流の活性化に向け、2019年11月よりチレトゥー・プラブハンラトゥユネスコ世界ジオパークとの間で、姉妹ジオパークとしての交流を行っている。コロナ禍の影響で、交流活動が一時的に中断していたが、漸次、交流を再開・活発化するべく協議を継続中である。

項目	概要
交流再開協議	・ 9 月にモロッコ・マラケシュで開催された第 10 回ユネスコ世界ジオパーク国際会合の際に、先方代表団と協議を行い、本年度の事業としてオンラインでの児童・生徒交流の実施で合意。 2024 年度の再開を目処に実施に向け引き続き調整中。

ウ 多言語化・デジタル化情報発信事業

ユネスコ世界ジオパークとしての情報について、基礎資料を英語化し、蓄積する。

項目	概要
再認定資料の蓄積	・理事会で用いる事業報告・会計報告書を英語化し、ウェブページ上で公開中。 ・併せて、主要事業の企画書、ワーキンググループ答申、エコツアーリズム推進基本構想などの主要文書を、漸次英語化。

(3) 評価と改善

ア 再認定対応事業

- ・2022年度までの再認定対応では、審査員より、「極めて精緻で包括的」な対応であるという高い評価を受け、世界再認定を実現することができた。
- ・今次の再認定に当たっては、5つの指摘事項が示されたことを受け、関係市町や事業者、教育機関、パートナーシップ事業者等の協力により上記の事業に取り組んだ。
- ・前述のとおり、再認定に向けての情報や成果の蓄積は、中期的な視野に立ち、着実に執行すべき性格の事業であることから、次期2026年～2030年のジオパーク活動の基本計画の策定に際しても、より多くの市民参画により策定することを心掛ける。

①ジオパーク運営への市民参画促進

(ア) 市民参画の場づくり

既に、次回の再認定に向け、ボトムアップ・草の根の市民参画の促進には着手しているが、2024年度以後はこれら活動を活性化させる。特に、今後策定に着手する2026-2030年のジオパーク基本計画の策定に際しても、公募による市民代表の参画を呼び掛ける予定である。

(イ) 誰でも楽しめるジオパークに向けた取組（社会包摂の促進）

本年度は、終末期医療連携による絵画展、ガイド研修テーマでも、障がい者に対してのガイドの心得等を学びジオパーク活動の社会包摂の促進に取り組んできた。

引き続き、福祉関係者のジオパーク委員会への参画等により関係機関と連携した取組を推進したい。

(ウ) ジオキャラバンの開催

本年度は3会場で対話会を実施した。引き続き、各地に出向き、ジオパーク活動にかかる意見や提案を、今後の施策に反映させる。

②文化財及び文化（文学）の視認性の強化

複数の文化財や自然遺産をつなぎ可視化する散策路（トレイル）の整備に向け、「文学」「信仰」「歴史」との既存の資源を活かした来訪者への視認性の向上に関係市町の協力を得ながら取り組んでいく。

③地質と文化の関わりをストーリー化する

本年度は、熱川温泉のサイト認定や國學院大學との連携企画展等により、大地と文化のつながりをストーリー化した情報発信を行うことができた。引き続き、様々な関係

機関や事業者との連携による取組を行い、ジオパークの魅力に更なる広がりを持たせたい。

④域内企業との連携に基づく地場産品振興

- ・ 今後は、持続可能な生産と消費を促す認証制度の構築に向け、域内企業、美伊豆正会員や賛助会員とも連携し取り組みたい。

⑤その他東アジア文化都市事業「伊豆文学祭」、「異郷としての日本」事業実施、ユネスコ認定5周年記念事業の開催。

- ・ 今後も上記事業を機に、関係機関との連携による文化やユネスコ連携により、国際交流・協力事業や多言語化・デジタル化情報発信事業に取り組む。

10 ジオリア管理運営事業

(1) 事業概要及び目的等

ジオリアの常設展や企画展、各種イベントの開催などを通じ、観光来訪者・在住者（子供から大人までの）教育普及と併せ、伊豆半島ジオパークの普及啓発を行う。来訪者への案内業務は、今後もコロナ対策に万全を期しつつ、認定ジオガイドによる案内業務を行い、来館者に対して、伊豆半島ジオパークへの普及拠点としての機能強化を図る。

また各ビジターセンターとのネットワークの構築を強化し、来訪者への情報発信を適切に行い、域内来訪者のジオパークの情報発信拠点として来館者の満足度の向上と域内への回遊を促進する。

(2) 事業実施状況

ア ジオリア管理運営事業

項 目	概 要
①企画展の開催	・ 伊豆の国市立長岡中学校 優秀ジオポスター展 (4/20～6/20、2,168名来場) ・ 「ひかりを灯すしま」作品展 (6/22～8/29、2,454名来場) ・ 三嶋の神のモノガタリ焼き出された伊豆の島々 ※國學院大學博物館との共催 (9/23～11/19、2,130名来場) ・ ジオパーク子ども絵画コンクール巡回展 (12/14～1/9) (再掲) ・ 建築でたどる伊豆文学と伊豆の大地 (2/1～3/31)
②実施イベント及びワークショップ (一部事業再掲)	・ ジオリア来館者10万人達成記念セレモニー (5/19) ・ 「ブナ 青葉のワークショップ」伊豆の高地に育つブナについて学習 (5/5：参加者16名) ・ 「骨から知る伊豆半島の動物たち」ふじのくに地球環境史ミュージアムの講師による哺乳類の骨格についての学習会 (6/10：参加人数16名) ・ 韮山反射炉の日に合わせて、韮山反射炉ガイダンスセンターでのイベントにブースを出展。 (7/8：参加者18名)

	・「修善寺和紙の短冊に麦わらの張細工で風鈴を作ろう」地元に残る工芸について、作家による手ほどきを受けて作品を制作。(8/19：参加者 9 名) ・絵本「気のいい火山弾」の作者を講師に招いた朗読と岩絵の具ワークショップ (9/16：参加者 11 名) ・「ジオパークの写真絵本を作ろう」写真家で絵本作家でもある講師による写真絵本の作り方を学ぶワークショップ (11/5：参加者 11 名)
③ジオ関連商品販売	・ジオポロシャツ販売 (1, 419, 200 円 内ジオリア 127, 400 円) ・ジオかき氷販売 (8/1～9/30、売上 35, 250 円)
④ビジターセンター情報交換会	・2023 年度第 1 回ビジターセンター情報交換会開催 (会場・修善寺総合会館) (8/24) 参加者は行政担当・ビジターセンター運営者スタッフ 21 名。 「ビジターセンターの役割について、および情報交換会で取り上げたいこと 取り組みたいこと」をテーマにワークショップを開催。 ・第 2 回ビジターセンター情報交換会開催 (会場・ジオテラス伊東) (1/31) 参加者は行政担当及びビジターセンター関係者述べ 23 名。 ジオテラス施設見学 (企画展等の取組)、先進的な VR (仮想現実) 機器を使用して先進的なガイド手法について意見交換。 午後は同センター発着のミニガイドツアーを催行。
⑤視察対応	・山口県萩市議会 (5/20、5 名)「伊豆半島ジオパークについて」 ・石川県白山市議会 (7/14、9 名)「ユネスコ世界ジオパーク活動について」 ・耐火物技術協会関東支部 (10/14、32 名) ・茨城県つくば市議会 (10/24、10 名)「ジオリアの管理運営と課題について」 ・沼津河川国道事務所職員 (6/7、副所長以下 26 名) 伊豆半島ジオパークの資源と概要、現地視察

○開館以後のジオリア入館者数の推移 当初の年間目標入館者数は 1 万人。

	年間入館者数	摘 要
平成 28 年度	12, 858 名	
平成 29 年度	14, 484 名	
平成 30 年度	25, 799 名	ユネスコ世界認定
令和 元 年 度	19, 424 名	
令和 2 年 度	5, 926 名	コロナ感染拡大 (一時閉館)
令和 3 年 度	7, 315 名	コロナ対策継続
令和 4 年 度	12, 530 名	コロナ対策継続
令和 5 年 度	12, 937 名	5 月 8 日から 5 類感染症移行

(3) 評価と改善

ア ジオリア管理運営事業

- ・ジオリアでは年間6回のワークショップを開催し、様々な活動を行うことができた。
- ・ジオリアでは団体の受け入れも再開し、令和5年度の入館者数は昨年につき、目標の1万人を上回った。

①企画展の開催

- ・ジオリアの企画展は年間計画に基づき開催していく。また常設展示内容についても見直しを行う。

②実施イベント及びワークショップ（一部事業再掲）

- ・引き続き様々なステークホルダーとの連携による企画展をはじめ多様な企画展を開催していく。特に保護者と児童・生徒を対象としたワークショップ等の開催を充実させていきたい。

③ジオ関連商品販売

- ・販売スペースも限られてはいるが、ジオポロシャツをはじめジオパーク関連書籍、小物販売を継続する。

④ビジターセンター情報交換会

- ・域内には15のビジターセンターがあり、それぞれのビジターセンターが地域に根差した活動を行っていることもユネスコ世界ジオパークの再認定審査での評価を受けたところである。令和3年度から、ビジターセンターネットワーク構築のためのビジターセンター担当者の情報交換会も定期的で開催し、域内への活動周知や情報発信のネットワーク化に取り組んでいる。本年度もジオリアとジオテラス伊東の2会場で開催した。今後も引き続き定期的な開催を行うこととしたい。

⑤視察対応

- ・国内外からの様々な視察にも、先方が求める伊豆半島ジオパークの取組を具体的に紹介してきた。引き続き、教育機関や他地区のジオパーク関係者、海外からの視察等についても可能な限り対応し、ジオパークの普及に資することとしたい。

11 その他連携事業の実施

(1) 事業概要及び成果等

観光地域づくり法人として、様々な団体と事業連携を行った。

(2) 伊豆半島道路ネットワーク会議

伊豆縦貫道と国道、幹線市町道を含む地域全体のあるべき姿を検討し、短期・中長期を見据えた実施計画を策定することを目的としている。

(3) 日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」推進会議

伊豆半島全域を対象とする日本風景街道「なごみの伊豆 なごみの道」について、国交通省河川国道事務所等と連携し、伊豆の道が住民や訪れる人にとって“なごみの道”になるよう、周遊の道の魅力づくりなどに取り組んでいく。

(4) 環駿河湾観光交流活性化協議会

協議会に負担金を支出し、富士山駿河湾フェリーの事業運営に協力・連携している。

(5) その他の関係団体との連携

以下の関連団体に参加し、連携して事業を実施。

- 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会
- 静岡県大型観光キャンペーン推進協議会 伊豆地域会議
- 静岡県コンベンション推進協議会
- 静岡県東部地域コンベンションビューロー
- 伊豆地域インバウンド交通連絡協議会
- 駿豆線沿線地域活性化協議会
- 「昇龍道」連絡調整会議
- 伊豆の国市観光戦略会議
- 伊豆道の駅ネットワーク協議会
- 伊豆半島景観協議会
- ふじのくににすみかえる推進本部
- 賀茂地域ふれあい事業推進協議会
- 静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合
- 太平洋岸自転車道推進静岡地区協議会
- 静岡県サイクルスポーツの聖地創造会議
- 狩野川周辺サイクル事業推進協議会
- 静岡県東部スポーツ産業振興協議会
- 美しい“ふじのくに” まち・ひと・しごと創生県民会議東部地域会議
- 美しい“ふじのくに” まち・ひと・しごと創生県民会議伊豆半島地域会議
- 賀茂キャンパス活用推進委員会
- ジャパン・マウンテンバイク・カップ実行委員会
- 伊豆の国市狩野川利用調整協議会
- 伊豆地域インバウンド交通連絡協議会
- ポケモン GO 連携プロジェクト実行委員会
- サンフロン21 懇話会
- 伊東市ジオパーク推進会議
- ふじのくに静岡県伊豆・富士山周遊促進連絡協議会
- I COI フォーラム・ICOI 推進協議会
- 静岡県ガストロノミーツーリズムフォーラム
- ふじのくに大学コンソーシアム
- 富士山静岡空港利用促進協議会
- 静岡県黄金 KAIDO プロジェクト推進連絡会
- 静岡県新文化施設及び文化ネットワーク検討委員会
- MaOI フォーラム、美しく豊かな静岡の海を未来につなぐ会

Ⅱ 庶務の概要

1. 会員に関する事項（令和6年3月31日現在）

(1) 会員の異動数

区分	会 員 数		増減
	令和5年3月31日現在	令和6年3月31日現在	
正 会 員	107	108	1
賛 助 会 員	157	145	-12
協 力 会 員	3	3	0
合 計	267	256	-11

2. 役員等に関する事項（令和6年3月31日現在）

(1) 理事・監事

役 職	氏 名	分 属
会長(代表理事)	豊岡 武士	三島市長
副会長(理事)	山下 正行	伊豆の国市長
副会長(理事)	土方 健司	伊豆急ホールディングス株式会社取締役社長社長執行役員
理事	頼重 秀一	沼津市長
理事	齊藤 栄	熱海市長
理事	小野 達也	伊東市長
理事	松木 正一郎	下田市長
理事	菊地 豊	伊豆市長
理事	岩井 茂樹	東伊豆町長
理事	岸 重宏	河津町長
理事	岡部 克仁	南伊豆町長
理事	深澤 準弥	松崎町長
理事	星野 浄晋	西伊豆町長
理事	仁科 喜世志	函南町長
理事	三宅 裕司	東海自動車株式会社代表取締役社長
理事	伍堂 文康	伊豆箱根鉄道株式会社代表取締役社長執行役員
理事	紅野 正裕	沼津商工会議所会頭
理事	大沢 秀光	伊豆の国市商工会会長
理事	加藤 昌利	東伊豆町観光協会会長
理事	加藤 賢二	静岡県ホテル旅館生活衛生同業組合理事長
理事	小山 真人	静岡大学教授
理事	仲田 慶枝	伊豆半島ジオガイド協会会長
理事	植松 和男	(一社)法人美しい伊豆創造センター専務理事
理事	林 田 充	(一社)法人美しい伊豆創造センター常務理事
監事	稲田 精治	三島市観光協会相談役
監事	田 中 豊	下田商工会議所会頭

附属明細書

特に記載すべき重要な事項はありません。